第三十五條　本條例ハ昭和五年度ヨリ之ヲ施行ス

左ノ條例ハ昭和四年度分限リ之ヲ廢止ス

一　大正三年五月條例第三號特別稅戶別割條例

一　大正九年十一月條例第十一號特別稅特別消費稅條例

第三十六條　本條例中新開免租地段別割ニ關スル規定ノ施行ハ昭和九年度限リトス

第三十七條　本條例施行ノ際金庫稅又ハ軌道稅ヲ課セラルヘキ金庫又ハ軌道ノ所有者ハ本條例施行ノ日ヨリ二十日以內ニ第十八條又ハ第二十一條ニ準シ該當事項ヲ申告スヘシ

說明　昭和四年十二月二十七日諮問第十九號市會議決ニ基キ特別稅ノ設定竝改正ヲ要スルモノアリ、且從來各種別ニ規定セル本市特別稅ニ關スル條例ヲ此際整理統一スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

▽受益者負擔金輕減ニ關スル建議

一　受益者負擔金輕減ニ關スル建議

右提出候也

昭和五年十月六日

提出者

鹽月學　高橋義次　本田義成

結城禮一郎　橋本祐幸　八太茂

中塚榮次郎

贊成者　柳田宗一郎外四十八名

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

受益者負擔金輕減ニ關スル建議

按スルニ受益者負擔金ハ其性質ニ鑑ミ利益ヲ享受スル限度ニ於テノミ徵收セラルヘキモノナリト信ス然ルニ現行都市計畫法ニ基ク內務省令受益者負擔金ニ關スル賦課率ハ受益ノ實情ニ伴ハサルモノアルノミナラス納付年限亦甚タシク短期ニ過ク現ニ施行セラレツヽアル麻布區四ノ橋天現寺間竝ニ四谷大木戶觀音橋間道路新設擴築及麻布區古川改修工事ニ對スル負擔金ノ如キモ各受益ノ實狀ニ遠サカリ其率甚タシク苛重ノ嫌ヒアリ加之近時財界ノ不況愈深刻ヲ告ケ疲弊困憊ヲ極メツヽアル現況ニ於テハ其負擔洵ニ容易ナラス

本市當局ハ深ク此點ヲ考察セラレ適當ノ措置ヲ講シ之カ輕減ニ對シ萬全ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ望ム

右ハ十月七日ノ會議ニ上程、鹽月學君提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、內務省令ニ據ル東京府都市計畫事業道路負擔金竝ニ古川改修工事負擔金ハ、事實問題トシテ甚タ不合理ナルノミナラズ、其負擔賦課金額餘リニ鉅額ニシテ、市民生活ヲ脅威スル反社會的施設ナリト云ハザルベカラザルヲ遺憾トス。先ヅ道路事業ニ就キ其實情ヲ述ベンニ、四ノ橋天現寺間ノ道路延長ハ、約四町未滿ナリ、此ノ道路ノ兩側六十間以內ニ居住スル市民ニ對シ、七年間ニ五拾萬圓ノ鉅額ノ負擔ヲ命ジ、又四谷大木戶觀音橋間ノ短距離道路事業ニハ、其兩側ニ在住スル二百四十戶ノ市民ニ對シ、是レ亦七年間ニ七拾萬圓ト云ヘル鉅額ノ負擔ヲ賦課セリ。元來都市計畫事業ニ據ル道路工事ハ、國家又ハ東京市ト云ヘル公共的見地ヨリ、其必要ト認ムル所ニ從ヒ、所謂一方的必要意思ニ據リテ決定シタルモノニシテ、沿道住民ガ自己ノ社會生活上ヨリスル必要的欲求ニ據リテ決定シタルモノニアラズ、殊ニ權力ノ主體タル國家ノ如キ強力ニ賴リテ市民ノ自由

意思ヲ拘束シ、由テ以テ過重ナル負擔金ヲ賦課スルガ如キハ、時代逆行ノ甚シキ措置ト云ハザルベカラズ。勿論都市計畫法ニ據ル道路ノ竣成ニ因リテ、沿道住民ハ多少ノ利便ヲ得タルモ、他ノ一方ニ於テハ必要以上ニ道路ガ擴大サレシ結果、從來繁華ナリシ商店街モ裏町同樣トナリ、其繁榮ハ他ニ奪ヒ去ラレタル箇所アリ、爲ニ店鋪ヲ閉鎖シテ他ニ轉職スル者アリ、辛ウジテ踏留レル店鋪ハ自動車等ノ便開クルニ從ヒ、濛々タル塵埃裡ニ商品ヲ曝シ居レルガ其實情ナリ、然リ而シテ此ノ道路ノ竣成ニ因リテ尠カラザル恩惠ヲ蒙ルハ、自動車ヲ乘廻シ居ル一部ノ「ブルジョア」ナリ、沿道六十間以內ニ在住スル市民ニシテ、自己一人ノ糊口スラ辛ウジテ爲セル者モ無キニ非ズ、然ルニ一部少數「ブルジョア」ノ利便ノ爲ニ、多數ノ弱少市民ガ强制的ニ莫大ナル金額ノ賦課ヲ受クルガ如キハ到底許サルベキニアラズト考フ。次ニ古川改修問題ナルガ、元來古川ト云フモ、川トハ名稱ノミニシテ、一種ノ大ナル開渠ニ過ギズ、然リ而シテ從來ハ如何ナル豪雨アルモ、附近ニ廣濶ナル空地アリシ爲、此ノ開渠ニテ沿道住民ニ何等ノ損害モ與ヘザリシガ、都市ノ發達ニ從ヒ、人家稠密シテ、附近ニ空地ヲ失ヒタル結果、一度ビ降雨アルヤ、雨水ハ忽チ氾濫シテ、沿道住民ニ多大ノ損害ヲ與ヘツヽアリ、大都市ガ自己ノ力ヲ以テ下水其他ノ施設ヲ完備シ、以テ沿道ノ住民ヲ救濟スベキガ、大都市トシテ爲スベキ當然ノ責務ナリト考フ。都市計畫法ニ據ル幾多ノ事業ガ、今後ニ於テモ約束セラレ居ル將來ノ問題ニ關聯スル重大問題ナルヲ以テ、市理事者ガ內務省ニ向テ省令ノ改革ヲ要求スルガ如キハ、或ハ困難ナルヤモ知ルベカラズト雖モ、以上ノ理由ニ據リ、內務省令ノ根本ニ對シ、市民生活ノ實情ニ副フベク解決ヲ與ヘラルヽヤウ市理事者ノ努力ヲ希望シテ已マズト。斯テ他ニ質問モ意見モナク、本建議ハ滿場一致ニテ可決セリ。

第拾貳節　課稅率決定ノ件

▽昭和五年度市稅課率課額決定ノ件

第二十二號

昭和五年度市稅課率課額決定ノ件（右肩ノ◎印ハ委員會ニテ修正、左側ノ——印ハ同會ニテ原案ヲ削除シタルモノナルモ、本會議ニ於テ全部原案通復活セリ）

昭和五年度市稅課率課額ヲ左ノ通決定スルモノトス

附加稅	地租附加稅	宅地	本稅百分ノ	◎七十三・八
		其ノ他	本稅百分ノ	八十四・三
	營業收益稅附加稅		本稅百分ノ	◎百五十七
	所得稅附加稅		本稅百分ノ	百八十一・七
	鑛業稅附加稅		本稅百分ノ	◎十九
	取引所營業稅附加稅		本稅百分ノ	二十一
家屋稅附加稅			本稅百分ノ	◎七十六
一構ノ建物ノ賃貸價格三千圓（住宅專用ニ非サルモノハ七千圓）ヲ超ユルモノニ付テハ賃貸價格ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ增課ス但シ學藝若ハ慈善其ノ他營利ヲ目的トセスシテ公共ノ爲ニ專用スル建物又ハ新聞紙法ニ依ル出版業者ノ專用スル建物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス				
一構ノ建物賃貸價格三千圓ヲ超ユル金額			本稅百分ノ	百

昭和年間　第四章　昭和五年　第拾貳節　課稅率決定ノ件

普通市稅	百分ノ	◎六十一・三	
都市計畫特別稅	百分ノ	十二・五	
普通市稅	百分ノ	◎百四十四・五	
都市計畫特別稅	百分ノ	百六十九・二	
普通市稅	百分ノ	二百九十三	
都市計畫特別稅	百分ノ	十六	

同　五千圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ百二十
同　七千圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ百四十
同　一萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ百六十
同　一萬五千圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ二百
同　二萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ二百二十四
同　三萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ二百八十
同　五萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ三百二十
同　七萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ三百六十
同　十萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ四百二十
同　二十萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ四百八十
同　三十萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ五百四十
同　五十萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ六百

同　七十萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ六百六十
同　百萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ七百二十
同　二百萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ七百八十
同　三百萬圓ヲ超ユル金額　本稅百分ノ八百四十

營業稅附加稅　本稅百分ノ百二十二

雜種稅附加稅
- 不動產取得　本稅百分ノ百三十五
- 荷積車及自轉車　本稅百分ノ百九十四
- 其ノ他　本稅百分ノ二百十四

特別稅
- 遊興稅　娼妓ノ場合　花代百分ノ五　四・五
- 其ノ他ノ場合　花代百分ノ十四　十三・五
- 商品切手發行稅　商品切手發行高ノ百分ノ一
- 普通市稅　百分ノ百十九
- 都市計畫特別稅　百分ノ十六
- 普通市稅　百分ノ百七十八
- 都市計畫特別稅　百分ノ十六
- 普通市稅　百分ノ百二十二
- 都市計畫特別稅　百分ノ十六
- 普通市稅　百分ノ百三十四
- 都市計畫特別稅　百分ノ十六

金庫稅　外法高サ一・七五メートル以上ノモノ　一箇ニ付　年稅㊀二十二圓三十圓

外法高サ一・三九メートル以上ノモノ　一箇ニ付　年稅㊀十五圓二十圓

軌道稅　外法高サ一・一二メートル以上ノモノ　一箇ニ付　年稅㊀八圓十二圓

軌條一碼ノ重量六十封度以下ノモノ　軌道延長一メートルニ付年稅六十錢

同　六十封度ヲ超ユルモノハ十封度迄ヲ增ス每ニ一メートルニ付十錢ヲ增加ス

戶別割　新開免租地段別割　神田區錦町三丁目　一坪ニ付　年稅七十錢

芝區南濱町、金杉新濱町、日之出町　一坪ニ付　年稅四十錢

芝區車町、芝浦二丁目、同三丁目　一坪ニ付　年稅二十六錢

芝區芝浦一丁目、月見町一丁目、同二丁目　一坪ニ付　年稅二十二錢

深川區平久町一丁目、同二丁目、鹽濱町　一坪ニ付　年稅十九錢

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第二十三號議案（普通會計ニ屬スル東京市昭和五年度歲入出總豫算案）外十九議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、冒頭記載ノ如ク修正シタル旨報告アリタルモ、少數委員ヨリ反對意見ノ提出アリ、本案ニ關聯セル第二十三號議案、即チ昭和五年度歲入出總豫算案ニ對スル多數委員ノ意見ハ、本會議ニ於テ否決サレ、少數委員ノ意見通可決シタル結果本案ハ原案通復活セリ。（註、本章第拾參節參照）

▽昭和五年度特別消費稅課率決定ノ件　五月六日ノ會議ニ於テ、市理事者ヨリ左ノ報告アリタリ。

財主發第四五一號

昭和五年度特別消費稅課率決定ノ件市制第九十一條及第九十二條ニ依リ市長ニ於テ別紙ノ通處置致候條報告候也

昭和五年四月三十日

東京市長　堀切善次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

（別紙）

昭和五年度特別消費稅課率決定ノ件

昭和五年三月三十一日市會議決第十九號東京市特別稅條例ハ未タ主務官廳ノ許可ナキヲ以テ同條例施行ノ日ノ前日マテ施行スヘキ昭和五年度特別消費稅ノ課率ヲ左ノ通決定スルモノトス

娼妓ノ場合　消費金額　百分ノ五

其ノ他ノ場合　同　百分ノ六

說明　昭和五年度ヨリ改正スヘキ花代主義ニ依ル收入豫算ヲ以テ現行特別消費稅條例ニ依ル課率ヲ算出スルトキハ娼妓ノ場合百分ノ七藝妓ノ場合百分ノ八トナルモ暫定的ニ徵收スル消費稅ハ昭和四年度ノ延長ト見テ昭和四年度通ノ課率ヲ以テ賦課スルヲ適當ト認メ本案ヲ草ス。

（參照）

市制抄錄

第九十一條　市會成立セサルトキ、第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムル

トキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得（二項乃至四項略）

前四項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十二條　市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ（以下略）

第拾參節　昭和五年度東京市歲入出總豫算

▽普通會計ニ屬スル豫算

昭和五年度東京市歲入出豫算

歲入出原案額		委員會修正額	市會決定額
歲入		五四、〇六七、八五〇・〇〇〇圓	五二、七七一、〇〇六・〇〇〇圓	五四、〇八八、一一三・〇〇〇圓
歲出	經常部	二八、六二〇、三四七・〇〇〇	二八、六九三、八〇四・〇〇〇	二八、六九三、八〇四・〇〇〇
	臨時部	二五、四四七、五〇三・〇〇〇	二四、〇七七、二〇二・〇〇〇	二五、三九四、三〇九・〇〇〇
	合計	五四、〇六七、八五〇・〇〇〇	五二、七七一、〇六〇・〇〇〇	五四、〇八八、一一三・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ上程、劈頭ニ於テ市長**堀切善次郎君**提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、本案ハ諸君モ既ニ熟知サルヽ、財政計畫ト、昨年末本市ノ諸問ニ對スル當市會ノ答申ノ趣旨トニ據リ、其方針ヲ能フ限リ忠實ニ遵奉シテ編製シタリ。從テ新規事業等ニ就テハ、極メテ僅少ノ計上ヲ爲シタルニ過ギザルヲ遺憾トス。蓋シ今日ノ財政狀態ヲ以テセバ、洵ニ已ムヲ得ザルベシ。尙ホ水道、電氣、其他ノ特別會計ニ屬スル豫算モ、能フ限リ節約方針ヲ以テ編製シタリ希クハ愼重審議ノ上、協贊ヲ與ヘラレンコトヲト。斯テ**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第十九號議案（東京市特別稅條例設定ノ件「本章第拾壹節參照」）外十九議案ト共ニ、議長指名十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

中川重政　池田清秋　北條彥四郎　高橋義次　山田種三郎
川村正夫　和田操　森富太　岡田四郎　田代義德
寺部賴助　嶋名建　中南定太郎　渡龜造　茂木太市
河村慶治郎　八太茂

委員ハ**八太茂君**ヲ委員長ニ、**高橋義次、山田種三郎、川村正夫、和田操、寺部賴助、河村慶治郎**ノ六君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、左記希望條件ヲ附シ、且ツ歲入出ヲ前表記載ノ如ク修正スル事ニ議決シタル旨報告アリ、

希望條件

一、本歲出豫算執行ニ當リ、理事者ハ適當ナル行財政整理ヲ斷行シ、百五十萬圓程度ノ節約ヲ期セラルヘシ

同時ニ、左記少數委員ノ意見モ報告セラレタリ。

第二十三號議案調查委員少數者意見報告

本員等ハ本案ニ對シ少數意見ヲ有スル但シ理由ハ口頭ヲ以テ陳述スヘシ

右報告候也

昭和五年三月二十五日

右議案調查委員

中川重政　高橋義次　中南定太郎　河村慶治郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

委員長**八太茂君**先ヅ委員會ノ經過ヲ述ベテ曰ク、過般調査ヲ付託サレタル本案外二十議案ニ對シ、會ヲ開ク事二十回、其間社會事業竝ニ商工業施設等ニ對シテハ、特ニ他市ノ實情等ヲモ比較研究シ、愼重審議ヲ爲シタリ、歳出經常部第十一款中、教員ノ住宅料ハ昨年度ト同額トシ、其他ノ款項ニ於テ多少ノ增減ヲ爲シタル結果、七萬參千四百五拾七圓ノ增額トナリタルモ、臨時部ニ於テ、大藏省預金部ヨリノ借入返還金百參拾壹萬七千百七圓ヲ削除シ、其他ニ減額シタルモノヽ、合計金百參拾四萬四千四百八拾貳圓ニシテ、差引減額總計百貳拾七萬百貳拾五圓トナレリ。歳入ニ於テハ過年度收入其他ヲ合セテ參拾萬千七百八拾七圓ヲ增額シ、此ノ增額ト歳出ニテ減ジタル金額トノ合計百五拾七萬貳千八百拾貳圓ヲ、荷積車及ビ自轉車稅、府稅營業稅竝ニ各種新稅及ビ增稅中ニ於テ、按分シテ減稅スル事トセリ。尙ホ本案ハ、以上修正ノ結果、本案ト關聯スル第十九號議案（註、昭和五年度市稅課率額決定ノ件「前節第壹項參照」）及ビ第二十二號議案（註、東京市特別稅設定ノ件「本章第拾壹節第壹項參照」）ヲ夫レ〳〵修正シタリト。次イデ**高橋義次君**ハ少數委員ヲ代表シ述ベテ曰ク、本員等ガ委員會ニ於テ少數意見ヲ留保シタルハ、大藏省預金部ヘノ返還金ニ關スル事ト、過年度收入金參拾萬圓ノ增收ヲ見積リタル事トノ二點ニ在リ、大藏省預金部ヘ返還スベキ金額ヲ豫算面ヨリ削除スル事ニ吾々ガ反對シタル理由ハ、大別シテ二トス、其一ハ返還金ノ性質ニ就テ考察スルニ、大正十二年十二月四日附東京府知事ヨリ本市ヘ移牒セラレタル低利資金融通許可條例中ニ、昭和五年度ノ會計年度ニ於テ償還履行期ノ到來スベキヲ明定セリ、即チ昭和五年三月、九月及ビ翌年ノ三月ニ於テ之レガ支拂ヲ爲サヾルベカラズ、震災應急施設費其他街路修築費、土地區劃整理事業費等ニ關シテモ、同樣昭和五年度ノ會計年度內ニ辨濟期ハ到來シ居レルナリ、此ハ法律ニ據ル義務支出ナリトハ云フ能ハザルモ、契約上ノ義務支出ニ屬スルモノナル事ハ、一點疑ヒノ餘地ナキ性質ノ債務ナリト考フ、以上ノ論斷ヲ前提トシテ市制ヲ案ズルニ、第九十條中ニ「市會又ハ市參事會ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハサルモノアリト認ムル時ハ、前二項ノ例ニ依ル、左ニ揭クル費用ヲ削除シ又ハ減額シタル場合ニ於テ、其費用及之ニ伴フ收入ニ付亦同シ」ト規定シ、其第一號ニ「法令ニ依リ負擔スル費用、當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用、其ノ他ノ市ノ義務ニ屬スル費用」ト明定セリ、而シテ前二項トハ「市會又ハ市參事會ノ議決明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ、市長ハ其意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ、理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ、但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ市長ハ之ヲ再議ニ付セスシテ、直ニ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得。前項ノ規定ニ依リ爲シタル市會又ハ市參事會ノ議決仍明ニ公益ヲ害スト認ムルトキハ、市長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請フヘシ」ト規定セルナリ、尙ホ市制第百六十三條ニハ「市ニ於テ法令ニ依リ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依リ命スル費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ、府縣知事ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得」ト規定セリ、故ニ若シ市ノ義務支出ニ屬スル債務ノ計上ヲ、義務履行期ノ當然到來シ居レル會計年度ノ豫算面ヨリ削除スル事トセバ、市制ノ明文ニ從ヒ、市長ヲシテ再議ニ付スル手續ヲ執ラシムルカ、又ハ府知事ノ指揮ヲ請ハシムルガ如キ情勢ヲ惹起スルヤモ知ルベカラズ、斯ル蓋然性アル修正削除ヲ爲スハ、立憲的行動ヲ堅持シ、合理的審議ヲ爲サヾルベカラザル事ト信ジタルニ因ル、次ニ過年度收入金參拾萬圓ノ增收ヲ見積リ、仍テ得タル金額ヲ新增稅ノ輕減ニ充當スベシトハ、多數委員ノ意見ナルガ、新增稅計畫ノ確立シタルハ、諸君モ熟知ノ如ク、財政調査會ニ於テ委員總會ヲ開ク事十三回、內務、大藏兩省ニ陳情シタル事三回、研究會ヲ開キタル事六回、理事會ノ開催四回、實地視察九回ニ及ビ、愼重審議ノ末、市會ニ提案サレ、昨昭和四年十二月二十七日ノ會議ニ於テ、大多數ヲ以テ可決シタル市長ヨリノ諮問案第十九號ナリ、本市

財政ノ基礎ヲ鞏固ナラシメンガ爲、所謂十年計畫案トシテ愼重審議ノ末ニ確定シタル此ノ增稅ニ對シ、確定後僅々三箇月ニ過ギザル今日、俄ニ其基礎ニ變改ヲ加ヘ、其計畫ニ動搖ヲ與フルガ如キハ、市會當初ノ意見ニ全然相反スル結果ヲ招來ス、仍テ新增稅ノ輕減ニ依リテ恒久性ヲ有スル財政計畫ノ基礎ニ動搖ヲ生ゼシメンヨリハ、寧ロ其因テ得タル金額ヲ市債ノ利子支拂ニ充當スルヲ以テ優レリト信ズ、元來起債ハ云フ迄モナク財政ノ基礎ヲ危クスルモノナルヲ以テ、能フ限リ之ガ抑壓ニ努メザルベカラズ、利子ノ支拂ハ市債緩和ノ一方策ニシテ、新增稅ノ輕減ニ依リテ恩惠ヲ受クル範圍ハ極メテ狹ク、利子ヲ支拂ヒ市債ヲ緩和スル事ニ依リテ恩惠ヲ被ル者ハ、全市民ニシテ、其範圍ハ廣シ、故ニ多數市民ノ利福ヲ考慮スベキ立場ニ在ル吾々ハ、當然多數委員ノ意見ニ反對セザルベカラズ、尙ホ昭和五年度ノ豫算ハ本市ノ財政ヲ鞏固ナラシムル爲、新增稅ヲ考慮シテ編製サレタルモノナルモ、之レガ徵稅ニ關シテハ、未ダ主務省ヨリ最後的許可ノ決定アリシニアラザルガ故ニ、歲入出共ニ、豫算面通リ確實ニ其遂行ヲ期シ得ルヤ否ヤハ、未ダ充分ナル確信ヲ得ル能ハズ、從テ過年度收入ノ增加ヲ見越スハ、責任アル吾々ノ立場上愼重ニ考慮セザルベカラズト考フ、以上ハ吾々ガ委員會ニ於テ少數意見ヲ留保シタル概要ナリト。斯テ引續キ左ノ贊否ノ兩論アリタリ。

小俣政一君　經濟界ノ不況ト行詰レル市民生活ノ現狀トニ照シ、今日新增稅ノ行ハルヽハ甚ダ遺憾ナルモ、本市財政ノ窮迫セル事モ亦等閑視スル能ハザル問題ナリ。仍テ此ノ難局ヲ打開シ財政ノ基礎ヲ確立セシムル爲ニハ、多少ノ犧牲ヲ忍バザルベカラズ、此ノ意味ニ於テ本員等ハ大體ニ市長ノ提案ヲ承認セント欲ス。即チ左ノ希望條件トヲ附シテ、少數委員ノ意見ニ贊成ス。但シ本員ガ此ニ附スル希望條件ハ、從來同樣ニ空文視セズ、强キ意義ヲ有スルモノナル事ヲ理事者ニ於テ承知サレンコトヲ望ム。尙ホ計數上ノ整理ハ、理事者ニ一任セント欲ス。

條件

希望

歲出臨時部第二十五款市債費公債償還金經濟繰入、第十七、第十八、第十九ノ四種目ニ關シテハ、目下市財政ノ現況ニ鑑ミ、一箇年間返還延期ノ實現ヲ期セラルベシ。

本多市郎君　本員モ調査委員ノ意見ニ反對ナルガ、其反對要旨ハ、少數意見ヲ支持サレタル高橋君ノ主張ト同一ナルヲ以テ、本員ノ意見陳述ハ見合ハスベシ。

田代義徳君　昨年末本市ノ財政整理ヲ爲サントスルニ際リ、市長ハ新ニ增稅ヲ爲スニアラズンバ、本市財政ノ基礎ヲ確立セシムル能ハズ、財政ノ基礎確立スルニアラズンバ、政府ヨリ外債利子ノ補給ヲ受クル能ハズト云ヘリ。然リ而シテ增稅ニ就キ市長ヨリ本會ニ諮問アリシ際、先ヅ行政ト財政トノ整理ヲ行ヒ、增稅ハ其後ニ爲スベキモノト考ヘ居レル吾々同志ノ一人ハ、其旨市長ニ進言シタルモ、市長ハ增稅ヲ爲スニアラズンバ、行政ト財政トノ整理ノミニテ新財源ヲ得ル能ハズンバ、政府ヨリノ外債ノ補給ヲ受クル能ハズト繰返セリ。仍テ已ムヲ得ズ新增稅案タル諸問案ニ贊成シタルナリ。此ハ獨リ本員ノミナラズ、多數同僚諸君モ同一ナリト思惟ス。（其通リ、同感ト呼ブ者アリ）然ルニ昭和四年度ノ外債利子ハ政府ヨリ受クル能ハザル事トナリ、而モ昭和五年度ノ豫算面ニハ、行政整理ノ行ハレタル痕迹ダニ發見スル能ハザルニアラズヤ。勿論物件費二割削減、人件費二分減ト云ヘル修正ハ加ヘアルモ、毫モ本市行政ノ根本ニ觸レ居ラズ、仍テ本員等ハ、行政整理ニ對スル本員等ノ意見ヲ豫算面ニ具體化セント欲シテ、之レニ修正ヲ加ヘタルナリ。元來新增稅案ノ因テ來ル重要ナル原因、其成立シタル一大理由ハ、昭和四年度ノ外債利子補給ヲ政府ヨリ受ケント欲シタルニ在リ、然ルニ其希望條件トヲ附シテ、少數委員ノ意見ニ贊成ス。但シ本員ガ此ニ附スル希望條件ハ、從來同樣ニ空文視セズ、强キ意義ヲ有スルモノナル事ヲ理事者ニ於テ承知サレンコトヲ望ム。尙ホ計數上ノ整理ハ、理事者ニ一任セント欲ス。

望ニシテ裏切ラレタル上ハ、増税案ニ賛成シタル當時ノ心理狀態ニ多少ノ動搖ヲ來スハ、蓋シ已ムヲ得ザルベシ。然リ而シテ増税案成立後僅々三箇月ニ過ギザルモ、其間ニ於テ所謂世間ノ不景氣ハ深刻化シ、市民生活ハ極度ニ行詰レリ。既ニ増税ノ主要目的ニシテ達スル能ハザル事トナリタル上ハ、其ノ負擔輕減ヲ計ルハ當然ノ措置ト考フ、本市ニハ預金部以外ニ於テ、既ニ期限ノ到來シタル借財ニシテ未ダ返還セザルモノ尠カラズト聞ク。唯預金部ノ資金ハ他ノ資金ト其性質ヲ異ニシ、政府ガ國民ヨリ預リタル金ナルヲ以テ、一般ノ借財ト同一視スル能ハズト論ズル者アルモ、其期限ハ未ダ到來シタルニアラズ、且ツ返還ヲ肯ゼズト云フニアラズシテ、一箇年ノ延期ヲ請ハント欲スルニ在リ。蓋シ泣キ叫ブ子ヲ負ヘル親ヲ慰ムルニ先ダチ、其背ニテ泣キ叫ブ子ヲ慰撫スベキガ急務ナルベシト考フ。其輕減額ハ僅々百六拾萬圓ニ過ギズト雖モ、世上今日ノ如キ不況ノ際、吾々ハ市會議員トシテ、増税ヲ負擔スル市民ノ輕減ヲ計ラザルベカラズト思惟ス。以上ノ理由ニ依リ本員ハ委員會ノ修正案ヲ支持セント欲ス。

島中雄三君　新増税計畫樹立ノ際、市長始メ理事者ハ國庫ノ利子補給ヲ條件トスベシト說明シタルハ事實ナルモ、本市現在ノ財政狀態ニテハ、新増税ヲ行フニアラズンバ、其破綻ヲ救フ能ハズ、故ニ本員等ハ利子補給問題トハ別箇ニ、新増税ヲ實行スベキガ當然ナリト思惟ス。唯今田代君ハ中央政府タル親ヨリモ、財政窮乏ノ爲メ親ノ背ニ在リテ泣キ叫ブ子タル東京市ヲ慰撫スベキガ、刻下ノ急務ナリト云ヘルガ、吾々無產階級ノ立場ヨリセバ、親タル有產階級ヨリモ、子タル無產階級ヲ慰撫スベキガ今日ノ急務ナリト考フ。新増税ニ由リ多少負擔ノ加重ヲ見タルハ、何レモ負擔能力アル少數ノ有產階級ナリ。現在東京市民タル多數ノ無產階級ハ、東京市ノ財政窮迫以上ニ窮迫シ居レリ。見ヨ今日本市ニ於ケル失業者ノ洪水ヲ、之レガ救濟ヲ爲ス事モ亦、本市當面ノ急務ナリト思惟ス。然リ而シテ本問題ノ解決ニモ資金ヲ要ス。仍テ小俣君ヨリ提出アリタル「百五拾萬圓以上ノ節約ヲ期セラルベシ」トノ條件中ニ、「此ノ金額ハ必ズ之ヲ當面ノ急務タル失業救濟ニ充當スベシ」ト云ヘル一項ヲ挿入スル事トシテ、少數委員ノ意見ニ賛成ス。尙ホ行政財政等ノ整理ヲ行フ事モ本市當面ノ急務ノ一ニシテ、局課ノ廢合、其他機密費、交際費、人件費等ノ節約ヲ行フベキハ勿論ナリ。只人件費中、高級人件費ニ觸ルヽ範圍ノ行政整理ニハ賛成スルモ、下級人件費ニ觸レ、下級吏員ノ生活ヲ脅ス行政整理ニハ斷乎トシテ反對セザルヲ得ズ、此ノ意味ニ於テ、本員ハ多數委員ノ修正意見ニ反對シ、原案ニ希望條件ヲ附スル事トシテ賛成ス。

渡邊道君　島中君ハ増税ニ由リテ得タル資金ヲ失業救濟ノ資ニ充當スベシト云ヘルガ、多數委員ノ修正案ガ委員會ニ提出サレタル際、無產黨ヲ代表セル委員ノ一人和田操君ハ、荷車税、荷積車税、自轉車税、府税、營業税等ニ輕減ヲ見ルナラバ、無產黨ノ主義主張ニ合致スルヲ以テ、新増税ノ緩和ニハ賛成ナリト云ヘリ。斯ク委員會ニ於テ、無產黨ヲ代表セル和田君ハ、吾々ノ意見ニ賛成セルニ拘ラズ、今日無產黨ヲ代表セル島中君ハ原案ニ賛成ナリト云ヘリ。此ノ無產黨ノ變說ハ、本員ヲシテ之ヲ云ハシムレバ、只宣傳ヲ是レ事トシ、內心理事者ニ迎合スル以外、何等ノ黨是ヲモ有セザル事ヲ告白シタル證左ナリト斷言シテ憚ラズ。更ニ高橋義次君ハ預金部ヘノ返還金削除ニ就キ、最後ニ至リテ少數意見ヲ留保セラレタルモ、初メ其第一回ノ返還期ハ本年九月ニシテ、其次ハ來年三月一日ナルヲ以テ、之ヲ削除スベシトノ提言アリタル際、高橋君ハ賛成者ノ一人タリシモノニテ、委員會ニ於テハ滿場一致ニテ之ヲ削除スル事ニ決シタルナリ。勿論高橋君ガ他ノ事情ニテ賛成意見ヲ撤回シタリトナラバ已ムヲ得ザルモ、法律論上豫算面ヨリ之ヲ削除スルハ違法ナリト云フニ至リテハ、法律家タル高橋君ノ爲ニ惜マザルベカラズ。本員ハ法律家ニアラザルモ、豫算面ヨリ之ヲ削除スルモ斷ジテ違法ニアラズト確信ス。先刻田代

君ガ預金部ヘノ返還金ヲ返還セザラント欲スルニハアラズ、即チ之ヲ踏倒サント欲スルニハアラズト述ベタル際、議員中ニ笑ヒタル人アリタルガ、國庫ヨリノ借入金七千參百萬圓ヲ踏倒サントシタル人アルニアラズヤ、我ガ東京市長ガ此ノ七千參百萬圓ノ國庫借入金元利免除ニ奔走シタルハ、一種ノ踏倒シヲ策シタルモノト云ハズシテ何ゾ、當時諸君ハ市長ノ此ノ行動ヲ默認シ、今日吾々ガ預金部ヘノ返還ヲ一ケ年延期セントシタルニ對シ、違法ナリト呼號ス。踏倒シハ可ナルモ、延期ハ不可ナリトハ、純理論ヲ標榜スル諸君ニシテ、何ゾ其理論ノ一貫セザルノ太甚キヤ。過年度市稅參拾萬圓ヲ增額セシメタルモ亦當然ノ措置ト考フ、試ニ見ヨ昭和五年度ノ追加豫算中ニ、昭和四年度ノ過年度市稅約四百萬圓ヲ計上シ居ルニアラズヤ、故ニ昭和五年度ニ於テモ、四五萬圓ノ過年度市稅ヲ見込ミ得ルハ疑ヒナキナリ。然ルニ之ヲ貳百九拾萬圓ニ減縮シタルハ如何ナル理由ナリヤ、本員ハ理事者竝ニ少數意見ノ贊成者等ニ對シ、過年度市稅ノ見積ニ付如何ナル見解ヲ有セルヤヲ反問セント欲ス。尙增稅ニ就イテハ、其時機如何ヲ一考セラレンコトヲ望ム。經濟力ノ恢復シタル好況時ニハ、五百萬圓ノ增稅必ズシモ苦痛トセザルモ、不況ノ今日ニ在リテハ、五百萬圓ノ負擔ハ甚ダ苦痛ニシテ、而モ此ノ增稅ハ、何等カノ形式ニテ無產階級ニモ轉嫁サルベク、結局增稅ハ無產階級ニモ利益トハナラザルナリ。要スルニ本員ハ希望條件ヲ附シタル少數委員ノ意見ノ如キ、愚ナル豫算ヲ作製シテ得々タル人々ノ心事ヲ解スルニ苦ム。二百萬市民ハ、必ズ多數委員ノ意見ニ贊成スベキヲ疑ハズ。

此ノ時**和田操君**ハ、一身上ノ辯明ニ就キ述ベテ曰ク、委員會ニ於テ增稅額百五拾七萬餘圓ヲ減額修正ノ際、無產階級ニ貳拾萬圓ノ利益アリト考ヘ、初メ多數委員ノ修正意見ニ贊成シタルモ、後百參拾七萬餘圓ハ「プルジョア」階級ニ返戻スル結果トナル事ニ氣附キ、反對セザルベカラザル事トナレリ、此ノ點渡氏ノ諒承ヲ請フ、尙ホ多數委員ノ修正案中ニハ、理事者ヲ更迭セシメントスル毒素ノ含マレ居ル事ニモ氣附キタルヲ以テ、愈ミ反對ノ意ヲ强メタリト。時ニ發言ヲ求ムル者多ク、議場喧騷ス。此ノ喧騷裡ニ**高橋義次君**モ一身上ノ辯明ヲ爲シテ曰ク、預金部ヘノ返還金削除ニ就キ、渡邊君ハ委員會ニ於テ全會一致ノ議決ナリト云ヘルモ、斷ジテ全會一致ノ議決ニアラズ、唯委員會ハ能フ限リ家庭的ニ、圓滿ニ協調セント述ベタルハ事實ナリ、想フニ渡君ハ圓滿協調ヲ贊成ト錯覺シタルナラン、本案ニ對スル委員會ノ最後的決定ハ、最終日ニシテ、當時吾々ハ堂々ト少數意見ヲ留保シタルナリト。斯テ**大神田軍治君**ヨリ、討論終結ノ動議提出アリ、議長ハ之ヲ議場ニ諮ラントシタルニ、「議長橫暴」ト呼ブ者アリ、「反對」ト叫ブ者アリ、「贊成」ト呼ブ者アリ。**柳澤議長**ハ、議長ノ處置橫暴ニアラズト考フトテ、討論終結ノ動議ヲ採決ニ附シタルニ、「多數」ト叫ブ者アリ、「少數」ト呼ブ者アリタルガ、議長ハ多數ト認ムトテ、討論ノ打切ヲ宣シ、多數委員ノ修正案ヲ先ヅ採決ニ附シタルニ、贊成者少數ニテ否決サレ、次イデ少數委員ノ意見ニ小俣政一君ヨリ提出ノ希望條件ヲ附スル事トシテ、之ヲ採決ニ附シタルニ、贊成者多數ニテ可決セリ。其結果本案ニ關聯セル本章第拾壹節第壹項ニ揭ゲタル第十九號議案（特別稅條例設定ノ件）竝ニ前節第壹項ニ揭ゲタル第二十二號議案（課稅率決定ノ件）ハ何レモ原案ニ復活セリ。

次イデ三月三十一日ノ會議ニ於テ、左記追加更正豫算提出アリ、異議ナク原案通即決可決セリ。

第八十一號

昭和五年度東京市歲入出追加更正豫算

歲　入

一金五千四百六萬七千八百五拾圓	既定歲入豫算高	
一金六千百六拾貳萬千四百六拾四圓	追加更正歲入豫算高	

歳出

一金貳千五百四拾四萬七千五百參圓
一金參千參百萬千百拾七圓
既定合計金五千四百六萬七千八百五拾圓
追加更正合計金六千百六拾貳萬千四百六拾四圓

（更正豫算表略ス）

說明　本件ハ第七十八號（自大正十二年度至昭和五年度東京市街路修築竝土地整理費更正繼續年期及支出方法）、第七十九號（自大正十二年度至昭和六年度東京市帝都復興費更正繼續年期及支出方法）議案ニ伴ヒ及家屋稅調査委員選擧竝同調査委員會ニ提出スヘキ資料調査ニ要スル經費ヲ追加スルモノトシテ本案ヲ提出ス

越エテ五月十二日ノ會議ニ於テ、更ニ左記追加更正豫算ノ提出アリ、是レ亦異議ナク原案通可決セリ。

第八十六號

昭和五年度東京市歳入出追加更正豫算

歳入

一金六千百六拾四萬千七百貳拾七圓
一金六千百八拾四萬貳千四百四拾九圓

歳出

一金貳千八百六拾九萬參千八百四圓
一金貳千八百七拾壹萬參千九百四拾貳圓
一金參千貳百九拾四萬七千九百貳拾參圓
一金參千參百拾貳萬八千五百七圓
既定合計金六千百六拾四萬千七百貳拾七圓
追加更正合計金六千百八拾四萬貳千四百四拾九圓

（更正豫算表略ス）

說明　本案ハ左記事由ニ依リ豫算ノ追加更正ヲ爲ス爲提出ス。

經常部

公園費　龔ニ國ヨリ移管セラレタル濱町公園ノ維持管理費ヲ追加スルモノトシ資源ヲ公園關係經費ノ收支殘金ニ需ム

臨時部

區役所費　目下施行中ニ係ル滯納整理事務ヲ引續キ行フト本月十六日及二十一日ニ施行セラルル淺草、神田、日本橋各區ニ於ケル府會議員補闕選擧トニ要スル經費ヲ追加スルモノトシ資源ヲ過年度市稅ニ需ム

學校費　京橋商業學校校舍ノ假移轉ヲ爲スモノトシ之カ資源ヲ過年度市稅ニ需ム

公園費　龔ニ國ヨリ移管セラレタル濱町公園ノ設備ヲ要スル爲資源ヲ公園積立金處分繰入ニ需ム

補助費　戰役記念慰安會、大日本體育協會、東京震災記念事業協會ノ事業費ニ對シ補助スルヲ公益上適當ト認メ之カ資源ヲ過年度市稅竝雜收入ニ需ム

積立金　公園關係經費ノ收支殘金中ヨリ經常部公園費ノ財源ニ充當スル爲減額ス

尙ホ十月三日附ヲ以テ、左ノ追加豫算案ノ提出アリタリ。

昭和五年度東京市歳入出追加豫算

追加更正經常部豫算高
既定臨時部豫算高
追加更正臨時部豫算高

既定歳入豫算高
追加更正歳入豫算高

既定經常部豫算高

歳入　一、三一五、八七三・〇〇〇円

歳出　經常部　一〇、九七〇・〇〇〇

　　臨時部　一、三〇七、三九五・〇〇〇

　　合計　一、三一八、三六五・〇〇〇

右ニ對スル歳入不足額ハ本年度收支殘金ヲ以テ充當

說明　第百二十八號議案（本章第參節下水道事業第貳項參照）ニ伴ヒ竝左記事由ニ依リ豫算ノ追加ヲ爲ス爲本案ヲ提出ス。

經常部

道路費　國ニ於テ施行セラレタル幹線街路ニ於ケル街路樹竝廣場植込等ノ引繼ヲ受クルニ依リ之カ維持管理費ヲ追加スルモノトシ資源ヲ過年度市稅ニ需ム

墓地費　財團法人東京震災記念事業協會ヨリ震災記念堂ノ引繼ヲ受クルニ依リ之カ維持管理費ヲ追加スルモノトシ資源ヲ雜收入（賽錢）ニ需ム

臨時部

補助費　淺草公園內淺草寺觀音堂修築ニ際シ公益上竝本市ト同寺トノ關係ニ鑑ミ同經費中ニ金拾萬圓ヲ該寺ニ補助スルモノトシ內金貳萬圓ヲ本年度ニ於テ支出スル爲資源ヲ公園積立金ニ需ムルト本市產業ノ奬勵助長ノ爲海港博覽會東京出品協會ニ補助スルモノトシ資源ヲ過年度市稅ニ需ム

積立金　公園竝墓地積立金ニ於テ關係收入アリタルト從來豫算ノ關係上積立未濟ニ屬シタルモノヲ公園積立金處分ノ必要上積立ツルモノトシ資源ヲ土地區劃整理淸算金、過年度市稅、國庫補助金竝收支殘金ニ需ム

雜支出　千駄ケ谷町ニ於テ同町穩田地先下水道ヲ改修スルニ際シ地勢ノ關係ニ鑑ミ同町ニ該工費ノ一部ヲ寄附スルモノトシ資源ヲ過年度市稅ニ需ムルト土地區劃整理淸算金支出ノ爲資源ヲ同交付淸算金竝公園及墓地積立金繰入ニ需ム

本案ハ十月七日ノ會議ニ於テ、**森富太君**ノ動議ニ據リ、第百二十八號議案（都市計畫事業改良下水道速成費國庫補助金申請ノ件「本章第參節第貳項參照」）外一議案ト共ニ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

中川重政　森健二　森兼道　倉持忠助　山田種三郎

高橋庄之助　小林半三郎　中南定太郎　森富太　長島武治

田代義德　和久利幾之助　川手忠義　小澤左重喜　加藤正信

委員ハ**高橋庄之助君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、十二月二日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

昭和五年度東京市歳入出追加豫算

歳入　三、二六九、七四〇・〇〇〇円

歳出臨時部　三、二六九、七四〇・〇〇〇

說明　第百四十四號乃至第百四十九號議案（註、街路修築費、改良下水道速成費、東京港修築費屎尿處分場及家畜市場竝屠場各建設費）ニ伴ヒ竝現下經濟界ノ情勢ニ鑑ミ上野恩賜公園施設、家屋稅賃貸價格調査竝塵芥處理工場船溜施設ヲ失業救濟事業トシテ起興スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

本案モ十月三日附ヲ以テ、市理事者ヨリ提案アリ、市會ハ同月七日ノ會議ニ上程、**森富太君**ノ動議ニ據リ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スルニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

堺利彥　高橋義次　川村正夫　安部利七　山口久吉

長島武治　高木謙　本田義成　島名建　杉ノ原英太郎
結城禮一郎　詫摩武彦　中西敏二　鈴木慶四郎　友成四郎

委員ハ**山口久吉君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、十二月二日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

▽特別會計ニ屬スル豫算

水道歳入出豫算

歳入		一八、七七五、一六〇・〇〇〇円
歳出	經常部	五、一二四、〇二九・〇〇〇
	臨時部	一三、六五一、一三一・〇〇〇
	合計	一八、七七五、一六〇・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第三十二號議案（養育院歳入出豫算）外七議案ト共ニ、議長指名十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

増田知治雄　富岡袖吉　森健二　蓮江啓藏　中塚榮次郎
長島武治　鹽月學　詫摩武彦　村田忠三郎　小野養治
中西敏二　阿部溫知　橋本祐幸　羽田如雲　小久保時之助
友成四郎　岡田和一郎

委員ハ**岡田和一郎君**ヲ委員長ニ、**蓮江啓藏**、**村田忠三郎**、**小野養治君**ノ三君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、左記希望條件ヲ附シテ原案ヲ可決スルニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

希望條件

本市現下ノ財政狀態竝ニ物價下落ノ傾向ニ鑑ミ、理事者ハ本豫算執行ニ際シ、可及的ニ緊縮節約セラレムコトヲ望ム。

越エテ六月二十一日ノ會議ニ於テ、左記追加豫算案提出アリタリ。

水道歳入出追加豫算

歳入	八〇〇、〇〇〇・〇〇〇円
歳出	八〇〇、〇〇〇・〇〇〇

說明　本件ハ既設重複水道鐵管ノ撤退及新設、本所、深川兩區ニ於ケル道路盛土工事ニ伴フ水道鐵管ノ整理工事竝在庫鐵管ノ塗替及水壓試驗作業ヲ失業救濟事業トシテ施行スルヲ適當ト認メ、之カ所要經費追加ノ爲、資源ヲ國庫補助金及借入金ニ需メ本案ヲ提出ス。

劈頭ニ於テ**本多市郎君**、本案ハ失業救濟ニ關聯セル議案ニシテ、今日失業者ハ頗ル窮迫シ居リ、之レガ救濟ハ焦眉ノ急ヲ要スル問題ナルヲ以テ、即決可決セラレムコトヲ望ムト希望シタルガ、**桑原信助君**ヨリ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託サレムコトヲ望ムトノ動議提出アリ、採決ノ結果、多數ニテ桑原君ノ動議成立シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

中川重政　卯木國三郎　北條彦四郎　高橋義次　森健二
馬島僩　柳田宗一郎　小林牛三郎　中塚榮次郎　長島武治

本田義成　新甫寛實　結城禮一郎　中西敏二　八太茂

委員ハ**小林牛三郎君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、七月二日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

尚ホ十月七日ノ會議ニ於テ、更ニ左ノ追加豫算提出アリ、異議ナク可決セリ。

水道歳入出追加豫算

歳　入　四九、五一四・〇〇〇円

歳　出　四九、五一四・〇〇〇

說明　本件ハ本年七月二日第百十一號議案（註、昭和五年度東京市歳入出追加豫算「市役所費、雜給其他」）議決ニ伴フ繰入並水道用地ニ對スル土地區劃整理清算金ノ支出ヲ要スルト、水源林事務所々在地青梅町防火施設ノ改善ニ依ル自動車喞筒購入費及水源林山梨縣北都留郡小菅村ニ架設ノ今倉橋架換費ノ一部ヲ寄附スルモノトシ之カ資源ヲ準備積立金繰入ニ需メ本案ヲ提出ス。

公債償還金歳入出豫算

歳　入　四六、四二五、四五一・〇〇〇円

歳　出　四六、四二五、四五一・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第二十六號議案（水道歳入出豫算）外七議案ト共ニ同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、歳入出ヲ金四千五百拾萬八千參百四拾四圓ニ減額修正シタル旨報告アリタルガ、**大神田軍治君**ヨリ、第二十三號議案（註、普通會計ニ屬スル東京市昭和五年度歳入出總豫算ノ項參照）ガ原案ニ復活可決シタル以上、本案モ當然原案ニ復活スベキモノト信ズトノ意見提出アリ、異議ナク大神田君ノ意見通、即チ原案復活ニ決セリ。

次デ六月二十一日ノ會議ニ於テ、左ノ追加豫算提出アリ、異議ナク原案通可決セリ。

公債償還金歳入出追加豫算

歳　入　一、二八九、五三一・〇〇〇円

歳　出　一、二八九、五三一・〇〇〇

說明　復興事業短期公債借替竝第八十九號議案（昭和五年度東京市歳入出追加豫算「本章第四節社會事業中第拾項參照」）ニ伴ヒ豫算追加ノ爲本案ヲ提出ス。

火災共濟金歳入出豫算

歳　入　一、二八九、五三一・〇〇〇円

歳　出　一、二八九、五三一・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第二十六號議案（水道歳入出豫算）外七議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

越エテ十月七日ノ會議ニ於テ、左記追加更正豫算提出アリタリ。

第百二十五號

火災共濟金歳出追加更正豫算

一金百貳拾八萬九千五百參拾壹圓

昭和年間　第四章　昭和五年　第拾參節　昭和五年度東京市歳入出總豫算

既定竝追加更正豫算高

（追加更正豫算表略ス）

說明　本案ハ第百二十四號議案ニ伴ヒ提出ス。

助役**菊池愼三君**提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、淺草區ニ於テ震災復興ニ依ル小學校ノ建設ハ、豫定年度內ニ工事竣成セズ、爲ニ後年度ニ繰越シタルモノ尠カラズ、當事者ハ銳意其進捗ヲ督勵シ、工事ノ進行ニ伴ヒ、數年ニ亘リテ建設費ヲ支出シツヽアリシガ、復興ニ關スル諸事業漸次竣工シ、最近淸算ヲ爲シタル結果、參拾貳萬圓ノ歲入缺陷アルヲ發見シタリ、此ノ如キ事柄ハ區自身ニテ始末スベキガ當然ナルモ、起債權ヲ有セザル現在ノ區ニ於テ、斯ル鉅額ノ缺損ヲ一時ニ補塡スル事ハ到底不可能ナリ、左レバトテ之ヲ此儘放任スル能ハズ、仍テ此ノ解決案トシテ、市ノ火災共濟金ヲ以テ一時立換ヘ補塡シ、後日相當ノ年限內ニ五分利ヲ附シテ區ヨリ市ニ返還セシムル事トセリ、淺草區ニ於ケル此ノ失態ハ甚ダ遺憾ナルモ、元來學校建築工事繰延ニ基ク繰越金ト、一般歲計繰越金ノ關係判然セザリシ規定ノ不備ニモ因ルモノニシテ、事情洵ニ已ムヲ得ザル點アリ、此ノ事アリテ今日市制及町村制施行規則ノ改正アリ、府及ビ內務省等ニテモ將來嚴重ニ監督シテ、今後斯ル失態ヲ再ビ繰返ササヽルヤウ努ムベキヲ以テ、右諒承セラレムコトヲ望ムト。次デ**森富太君**ヨリ、淺草區ニ於ケル此ノ鉅額ノ歲入缺陷ハ、市民ヨリ疑惑ノ眼ヲ以テ見ラレタル事柄ナルガ、理事者ノ唯今ノ說明ニ由リテ諒解セリ、仍テ市當局竝ニ區當事者ニ對シ今後ノ注意ヲ望ム事トシ、本案ハ卽決可決セラレムコトヲ望ムトノ動議提出アリ、異議ナク卽決可決セリ。本案ト共ニ原案通可決シタル本案關聯ノ第百二十四號議案ハ、左ノ如シ。

第百二十四號

淺草區歲入缺陷補塡金交付ノ件

淺草區普通經濟ニ於ケル歲入缺陷補塡ノ爲左記條項ニ依リ昭和五年度ニ於テ本市火災共濟金經濟ヨリ支出シテ同區ニ交付スルモノトス

記

一、交付金額　金參拾貳萬圓也

一、交付金利子相當額　年率五分ノ割合ニ依リ利子相當額ヲ納付セシム

一、交付金額納付方法　交付ノ年ヨリ五箇年据置其ノ後十五箇年ニ均分納付セシム

但シ財政ノ事情ニ依リ繰上納付セシムルコトアルヘシ

一、其ノ他必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

說明　淺草區普通經濟ハ大正十五年度以來累積シタル歲入缺陷ノ爲本年度支拂資金ニ不足ヲ生シ支障アルヲ以テ不得止之カ補塡ノ爲本市現有金中ヨリ交付スルモノトシ本案ヲ提出ス。

土地區劃整理淸算金歲入出豫算

歲入　一四、四八四、八八〇・〇〇〇圓

歲出　一四、四八四、八八〇・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第二十六號議案（水道歲入出豫算案）外七議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

養育院歲入出豫算

歳入　六三〇、六二三・〇〇〇円

歳出
- 經常部　六一四、三〇〇・〇〇〇
- 臨時部　一六、三二三・〇〇〇
- 合計　六三〇、六二三・〇〇〇

本案モ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第二十六號議案（水道歳入出豫算案）外七議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、左記希望條件ヲ附シテ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

希望條件

理事者ハ安全確實ナル方法ヲ以テ基本財産收入ノ增加ヲ圖ラレムコトヲ望ム。

電氣軌道事業費歳入出豫算

歳入　四二、二九〇、八〇三・〇〇〇円

歳出
- 經常部　一九、一五五、五三四・〇〇〇
- 臨時部　二三、一三五、二六九・〇〇〇
- 合計　四二、二九〇、八〇三・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、次項記載ノ電氣供給事業費歳入出豫算案外十三議案ヲ一括シテ、議長指名十七名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

伊東美代松　高橋俊太　大野傳吉　倉持忠助　高橋庄之助

松浦清三郎　新居友三郎　中南定太郎　山口久吉　山田保
高木謙　島本龍太郎　深澤豐太郎　高崎高次郎　和久利幾之助
笠井重治　小澤佐重喜

委員ハ**高橋俊太君**ヲ委員長ニ、**高橋庄之助**、**中南定太郎**、**山田保**、**高木謙**、**和久利幾之助**ノ五君ヲ理事ニ推シ、審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、左記希望條件ヲ附シテ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

一　軌道事業ニ於ケル使用料ハ昭和四年度ノ實績ニ徵スレハ二百五十萬圓ノ減收ナルニ對シ昭和五年度豫算ニハ僅カニ一百二萬餘圓ノ減收ヲ豫定セルハ收入見積過大ノ嫌ヒアリ依テ理事者ハ歳出豫算ノ執行上特ニ考慮セラレムコトヲ望ム

一　電力購入價格ハ他都市ニ比シ高價ニ過ク理事者ハ速ニ價格ノ低下ヲ期セラルヘシ

一　電力自給策ハ本市電氣事業經營上洵ニ喫緊ノコトニ屬ス理事者ハ速ニ之カ根本的解決策ヲ樹立スルト同時ニ既設發電所ノ善用及增設等ニツキ考慮ヲ拂ヒ之カ解決ノ一助タラシメムコトヲ望ム

一　慰安會費從來ノ費途ニ就テハ相當考慮ノ餘地アリト認ム仍テ將來恒久的ノ施設ニ充當セラレムコトヲ望ム

越エテ十月七日ノ會議ニ於テ、左記追加豫算ノ提出アリ、異議ナク原案通可決セリ。

電氣軌道事業費歳入出追加豫算

歳入　一三七、四六九・〇〇〇円

歳出　經常部　一四、二五〇・〇〇〇
歳出　臨時部　一二、一八〇・〇〇〇
　　合計　二六、四三〇・〇〇〇

歳入出差引殘金拾壹萬千參拾九圓

說明　七月二日第百十一號（註、昭和五年度東京市歳入出追加豫算「市役所費、雜給其他」）市會議決ニ伴ヒ經費繰入金竝土地區劃整理ニ伴フ清算金支出ノ爲本案ヲ提出ス。

電氣供給事業費歳入出豫算

歳入　經常部　一二、八〇四、八九五・〇〇〇円
歳出　臨時部　七、一七〇、九一三・〇〇〇
　　合計　五、六三三、九八二・〇〇〇
　　一二、八〇四、八九五・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、前項記載ノ第三十八號議案（電氣軌道事業費歳入出豫算案）外十三議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、左記希望條件ヲ附シテ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

希望條件

一、電燈經濟ニ於テハ經營費ノ低減ヲ圖リ、且ツ需用家ノ擴張ニ積極的方策ヲ樹テ、電燈料金ノ値下ニ努力セラレムコトヲ望ム

越エテ十二月二日ノ會議ニ於テ、左記追加豫算提出アリ、異議ナク原案通可決セリ。

電氣供給事業費歳入出追加豫算

歳入　三八五、〇〇〇・〇〇〇円
歳出　臨時部　三八五、〇〇〇・〇〇〇

說明　鬼怒川水力電氣株式會社供給ノ二十五「サイクル」電力ハ其ノ規格特異ニシテ融通性ヲ缺キ事業經營ノ安定ヲ期シ難ク且周波數變更ニ依ル損失少カラサルヲ以テ第百七十二號議案（註、本章第拾九節電氣軌道事業中第五項參照）ニ依ルモノト同時ニ既設機關ヲ周波五十「サイクル」設備ニ變更スルヲ適當ト認メ資源ヲ電氣事業減債基金剩餘額處分繰入ニ需メ本案ヲ提出ス。

乘合自動車事業費歳入出豫算

歳入　經常部　五、六一五、六〇九・〇〇〇円
歳出　臨時部　四、六六六、七八〇・〇〇〇
　　合計　九四八、八二九・〇〇〇
　　五、六一五、六〇九・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第三十八號議案（電氣軌道事業費歳入出豫算案）ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、左記希望條件ヲ附シテ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

希望條件

一、乘合自動車ノ路線設定ニ關シテハ電車路線トノ關係ヲ考慮シ、經營上萬遺算ナキヲ期セラレタシ

高速鐵道事業費歲入出豫算

歲　入　一五、三〇〇、〇〇〇・〇〇〇円

歲　出　一五、三〇〇、〇〇〇・〇〇〇

本案モ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第三十八號議案（電氣軌道事業費歲入出豫算案）ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

電氣事業減債金歲入出豫算

歲　入　五六、二七三、四一〇・〇〇〇円

歲　出　四九、四九三、〇三八・〇〇〇

歲入出差引殘金六百七拾八萬參百七拾貳圓

本案モ一月三十日ノ會議ニ於テ、前項記載ノ乘合自動車事業費歲入出豫算ト同一經過ヲ經、三月三十一日ノ會議ニ於テ原案通可決セリ。越エテ六月二十一日ノ會議ニ於テ、左記追加豫算案提出アリ、異議ナク即決可決セリ。

電氣事業減債金歲入出追加豫算

歲　入　一四、四七五、三〇〇・〇〇〇円

歲　出　一四、四七五、三〇〇・〇〇〇

說明　短期公債借替ノ爲本案ヲ提出ス。

次デ十月七日ノ會議ニ於テ、左記追加豫算案提出アリ、是レ亦異議ナク原案通可決セリ。

電氣事業減債金歲入出追加豫算

歲　入　一三、一五〇、〇〇〇・〇〇〇円

歲　出　一三、一五〇、〇〇〇・〇〇〇

說明　短期公債借替ノ爲本案ヲ提出ス。

電氣研究所費歲入出豫算

歲　入　三〇五、四七四・〇〇〇円

歲　出　三〇五、四七四・〇〇〇

本案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第三十八號議案（電氣軌道事業費歲入出豫算案）ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第拾四節　起債及市債償還ノ件

▽**土地區劃整理清算金立替資金借替起債ニ關スル件**　左記議案ハ一月三十日ノ會議ニ於テ、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第二十六號議案（特別會計ニ屬スル水道歲入出豫算）外七議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ調査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第三十號

東京市土地區劃整理清算金立替資金借替起債ニ關スル件

一　起　債　金　額　四百萬圓
二　起　債ノ目的　借入金償還資金ニ充當
三　借入金利率　年六分五厘以內
四　借入ノ方法　大藏省預金部其ノ他ヨリ借入
五　借入ノ時期　昭和五年度
六　償還期限及方法　自昭和六年度至昭和九年度四箇年內ニ隨時償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得
七　元利支拂資源　區劃整理徵收淸算金及市一般歲入ヲ以テ充當

說明　土地區劃整理淸算金立替資金ニ充當スル爲メニ大藏省預金部ヨリ借入レタル市債ヲ償還スルノ必要アルニ依リ借替ノ爲本案ヲ提出ス。

（償還年次表略ス）

▽起債及償還方法ニ關スル件　左記議案ハ三月三十一日ノ會議ニ上程、異議ナク原案通即決可決セリ。

第八十四號

起債及償還方法ニ關スル件

一　起　債　金　額　金貳百四拾萬參千圓
一　起　債ノ目的　復興事業公債外債利子支拂ニ充當
一　利　　率　年六分五厘以內
一　借入ノ時期　昭和四年度
一　借入ノ方法　銀行其ノ他ヨリ借入
一　償還期限　昭和五年度
一　元利支拂資源　國庫補給金又ハ一般歲入

說明　昭和四年度ニ於ケル復興事業公債外債利子額ハ當該年度ニ於テ國庫ヨリ補給ヲ受ケラレサル見込ニ付之カ所要資源ヲ起債ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス。

第拾五節　電氣軌道事業

▽電氣軌道事業建設費更正繼續年期及支出方法　一月三十日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、**加藤正信君**ノ動議ニ據リ、第三十八號議案（特別會計ニ屬スル電氣軌道事業費歲入出豫算）外十三議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、三月三十一日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第三十三號

自大正七年度至昭和七年度　東京市電氣軌道事業建設費更正繼續年期及支出方法

既定第二電氣軌道建設費
更正第二電氣軌道建設費

一金壹億千參百四拾七萬五千圓
一金八千百四拾九萬七千圓

內譯

金六拾壹萬四千五百七拾四圓貳拾九錢

大正七年度既支出額

金四百拾六萬千百四拾五圓七拾六錢
金九百六拾參萬貳千四百八拾圓八拾九錢
金千貳百參拾萬五千六百九拾四圓九拾七錢
金千六百八拾六萬五千四百八拾七圓九拾七錢
金千參百參拾六萬千七百八拾七圓貳拾五錢
金四百九萬參千七百參拾七圓參拾四錢
金五百九拾六萬五千九拾壹圓五拾參錢
金貳百八拾四萬八百拾貳圓五拾貳錢
金八百萬圓
金貳百九拾六萬參千四百拾圓貳拾六錢
金八百萬圓
金百八拾八萬七千六百五拾四圓拾六錢
金八百萬圓
金參百六拾七萬六千八拾四圓四拾參錢
金八百萬圓
金貳百四拾九萬四千百參拾圓拾六錢
金八百萬圓

大正八年度既支出額
大正九年度既支出額
大正十年度既支出額
大正十一年度既支出額
大正十二年度既支出額
大正十三年度既支出額
大正十四年度既定支出額
同　年度既支出額
大正十五昭和元年度既定支出額
同　年度既支出額
昭和二年度既定支出額
同　年度既支出額
昭和三年度既定支出額
同　年度既支出額
昭和四年度既定支出額
同年度更正支出額
昭和五年度既定支出額

金貳百參拾萬圓
金六百四拾七萬五千圓
金貳百拾五萬圓
金貳百拾五萬圓

同年度更正支出額
昭和六年度既定支出額
同年度更正支出額
昭和七年度更正支出額

說明　本事業ハ電氣軌道未成線ノ建設、既設軌道ノ改良、車輛ノ新改造竝之ニ伴フ諸設備改善ノ爲自大正七年度至昭和六年度十四箇年計畫ヲ以テ鋭意事業遂行中ノ處事業進捗ノ現況竝軌道事業財政ノ將來ニ鑑ミ事業計畫ノ變更ヲ要スルニ至レルヲ以テ總費額ヲ緊縮スルコトトシ且繼續年期ヲ一箇年延長シ各年度割額ノ更正ヲ爲スモノトス。

（更正支出計算表及計算說明表略ス）

▽電氣軌道事業復興費更正繼續年期及支出方法　左記議案モ前項記載ノ第三十三號議案ト同一經過ニ依リ、同日原案通可決セリ。

第三十四號

自大正十三年度至昭和六年度東京市電氣軌道事業復興費更正繼續年期及支出方法

一金貳千七百九拾萬圓
一金貳千參百五拾六萬圓

內譯

既定電氣軌道事業復興費
更正電氣軌道事業復興費

金七百拾貳萬四千百拾七圓拾九錢
金六百貳萬八千百六圓貳拾七錢

大正十三年度既支出額
大正十四年度既支出額

金四百拾壹萬七千七百七拾六圓五拾四錢
金參百八萬貳百六圓四拾五錢
金貳百貳拾萬圓
金貳百壹萬四百六拾九圓參拾六錢
金百萬圓
金百四拾五萬貳千八百六拾圓六拾參錢
金百萬圓
金百七拾六萬四千貳百四拾圓拾錢
金百萬圓
金百拾萬圓
金百萬圓
金百萬圓
金〇
金百參拾萬圓
金〇
金百五拾萬圓
金〇

大正十五昭和元年度既定支出額
同　年　度　既　支　出　額
昭和二年度既定支出額
同　年　度　既　支　出　額
昭和三年度既定支出額
同　年　度　既　支　出　額
昭和四年度既定支出額
同　年　度　更　正　支　出　額
昭和五年度既定支出額
同　年　度　更　正　支　出　額
昭和六年度既定竝更正支出額
昭和七年度既定支出額
同　年　度　更　正　支　出　額
昭和八年度既定支出額
同　年　度　更　正　支　出　額
昭和九年度既定支出額
同　年　度　更　正　支　出　額

金六拾參萬圓
金〇

說明　本事業ハ震災ニ因ル電氣軌道事業設備復興ノ爲自大正十三年度至昭和十年度十二箇年計畫ヲ以テ銳意事業遂行中ノ處事業進捗ノ現況竝軌道事業財政ノ將來ニ鑑ミ事業計畫ノ變更ヲ要スルニ至レルヲ以テ總費額中一部ヲ打切ルコトトシ且繼續年期ヲ短縮シ各年度割額ノ更正ヲ爲スモノトス。

（更正支出計算表及計算說明表略ス）

▽電氣軌道事業第二次復興費更正繼續年期及支出方法

左記議案モ前項記載ノ第三十四號議案ト同一經過ニ依リ、同日原案通可決セリ。

第三十五號

自大正十五昭和元年度至昭和七年度東京市電氣軌道事業第二次復興費更正繼續年期及支出方法

一金貳千九百萬圓

內　譯

金四拾五萬八千五百七拾參圓八拾貳錢
金五百四萬千四百貳拾六圓拾八錢
金貳百六拾六萬七拾貳圓八拾七錢
金五百五拾萬圓
金參百萬貳千八百七拾九圓七錢

大正十五昭和元年度既定支出額
昭和二年度既定支出額
同　年　度　既　支　出　額
昭和三年度既定支出額
同　年　度　既　支　出　額

金五百五拾萬圓　　昭和四年度既定支出額
金千參萬八千四百七拾四圓貳拾四錢　　同年度更正支出額
金四百五拾萬圓　　昭和五年度既定支出額
金七百五拾萬圓　　同年度更正支出額
金四百五拾萬圓　　昭和六年度既定支出額
金參百五拾貳萬圓　　同年度更正支出額
金參百五拾萬圓　　昭和七年度既定支出額
金百八拾貳萬圓　　同年度更正支出額

說明　本事業ハ帝都復興事業トシテ施行セラルル街路修築竝土地區劃整理事業ニ關聯シテ（自大正十五年度至昭和六年度）（自昭和六年度至昭和七年度）七箇年計畫ヲ以テ施行中ノ處事業進捗ノ現況ニ鑑ミ總費額ノ範圍內ニ於テ各年度割額ノ更正ヲ爲スモノトス。

（更正支出計算表及計算說明表略ス）

▽本市ト城東電氣軌道會社トノ間ニ軌道共用ニ關シ協定ノ件

第百二十一號

本市城東電氣軌道株式會社間軌道共同ニ關シ協定ノ件

本市ハ城東電氣軌道株式會社ノ設備シタル深川區西平井町二十番地先、同區東平井町東陽公園前間軌道ヲ共用スル爲左記協定書ノ條項ニ依リ協定ヲ爲スモノトス

記

（右側ノ◎印ハ委員會ニテ修正　左側ノ――印ハ同會ニテ削除）

軌道共用ニ關スル協定書

東京市（以下市ト稱ス）及城東電氣軌道株式會社（以下會社ト稱ス）ハ深川區西平井町二十番地先ヨリ同區東平井町東陽公園前ニ至ル間ルコトニ關シ左ノ條項ヲ協定ス

第一條　本協定ニ依リ共用ヲ爲スヘキ工作物ハ深川區西平井町二十番地先ヨリ同區東平井町東陽公園前ニ至ル間ニ於テ會社ノ施設シタル軌道（ポンドヲ含ム）竝電線路支持物トス（圖面參照）

第二條　前條ノ共用工作物ハ會社ニ於テ維持補修ヲ爲シ市ハ其ノ費用ノ半額ヲ負擔スルモノトス特殊ノ補修又ハ改良ヲ爲シタルトキ亦同シ但シ當事者一方ノ都合ニヨリ特殊ノ補修又ハ改良ヲ爲サントスルトキハ別ニ協議ノ上決定スルモノトス

第三條　共用區間ニ於ケル電車線、饋電線、電話線竝電燈線ハ各其ノ負擔ニ於テ之ヲ施設スルモノトス維持補修ニ付亦同シ

第四條　共用區間ニ於ケル電力ハ各自之ヲ供給スルモノトス

第五條　會社ノ現在終點ト市ノ新線トノ取付ハ市ノ負擔ニ於テ之ヲ施行スルモノトス

第六條　會社ノ洲崎終點附近ノ引返線ハ市ノ負擔ニ於テ之ヲ涉線ニ變更スルモノトシ其ノ維持補修ニ付テハ第二條ヲ準用ス

第七條　東陽公園前分岐線（電線路ヲ含ム）ハ市ノ負擔ニ於テ之ヲ施設スルモノトス維持補修ニ付亦同シ

第八條　將來會社ノ洲崎終點ニ引返線ヲ施設セムトスルトキハ分岐線（電線路ヲ含ム）其ノ他一切ノ施設ハ會社ノ負擔ニ於テ之ヲ爲スモノトス維持補修ニ付亦同シ

第九條　東陽公園前分岐ニ於ケル信號手、轉轍手ハ市ノ負擔ニ於テ會社ノ洲崎終點ニ於ケル信號手轉轍手ハ會社ノ負擔ニ於テ之ヲ配置スルモノトス

第十條　第二條ニ依ル負擔率ハ共用實施後滿一箇年ニ對スルモノトシ爾後ノ負擔率ハ各自ノ前一箇年間ニ於ケル運轉車輛噸哩數ノ比例ニヨルモノトス

第十一條　市ハ第一條ニ依ル共同工作物ニ對シ其ノ建設費金五萬八千貳百四拾五圓也ノ千分ノ三十五ニ相當スル

千七百四拾七圓參拾五錢

利子金貳千參拾八圓五拾七錢ヲ本協定成立ノ日ヨリ毎年會社ニ支拂フモノトス

第十二條　本協定ヵ市會竝會社重役會ノ議決ヲ經タルトキハ本協定成立ノ日ニ遡リテ其ノ效力ヲ發生ス

第十三條　本協定ノ有效時間ハ共ノ效力發生ノ日ヨリ十箇年トス但シ期間滿了六箇月前ニ協議ノ上之ヲ更新スルコトヲ得

本協定期間又ハ滿了ニ至リ共用ヲ廢止シタル場合ニ於ケル共用工作物ノ滅耗額ハ第十條ノ率ニヨリ市ハ之ヲ會社ニ支拂フモノトス

第十四條　本協定ノ期間經過後前條ノ協議調ハスシテ共用ヲ爲ストキハ其ノ期間中ハ本協定ニ準據スルモノトス

右協定ノ證トシテ本書貳通ヲ作成シ市及會社ハ各其壹通ヲ保有スルモノトス

昭和五年七月二十九日

東京市本所區江東橋四丁目二番地

東京市長　永田秀次郎

城東電氣軌道株式會社

取締役社長　大川平三郎

（參照）

丑土第三六八八號

昭和二年十一月二日

東京市電氣局長殿

東京府土木部長

西平井町東平井町間線路竝工事方法變更ノ件

大正十四年五月六日庶發第八〇九號申請ニ係ル標記ノ件別紙ノ通リ指令相成候處右ハ兼ニ認可アリタル旨通知置候城東電氣軌道同區間變更線路ヲ東京市ニ於テ共用スルモノトシテ認可相成候儀ニ付了知相成度及通牒候也

監第二九一〇號

昭和二年五月七日附城軌第一號及同年九月二十三日附城電第一號ノ一申請洲崎線殘區間線路及工事方法變更ノ件認可ス但シ左記條件ヲ附ス

昭和二年十月十五日

城東電氣軌道株式會社

鐵道大臣　小川平吉

內務大臣　鈴木喜三郎

一　將來東京市カ本區間ニ市所屬車輛ノ乘入運轉ヲ爲サムトスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

二　假鋪裝ノ使用期限ハ昭和四年十二月三十一日迄トス

以上

（圖面省略）

本案ハ十月七日ノ會議ニ上程、森富太君ノ動議ニ據リ、議長指名十五名ノ委員ニ調査ヲ付託スル事ニ決シ、議長ハ委

員ヲ左ノ如ク選定セリ。

中川重政　森健二　森兼道　倉持忠助　山田種三郎
高橋庄之助　小林牛三郎　中南定太郎　森富太　長島武治
田代義徳　和久利幾之助　川手忠義　小澤左重喜　加藤正信

委員ハ**高橋庄之助君**ヲ委員長ニ推シ、審査ノ末、翌昭和六年三月三十日ノ會議ニ於テ、第十一條中ニ修正ヲ爲シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

▽**電氣軌道乘車料條例改正ノ件**　左記議案ハ十二月二日ノ會議ニ上程、異議ナク原案通可決セリ。

第百六十七號

東京市電氣軌道乘車料條例改正ノ件

東京市電氣軌道乘車料條例ヲ東京市電氣軌道料金條例ニ改メ同條例左ノ通改正スルモノトス

第一條　本市電氣軌道ノ電車ニ乘車スル者ハ料金ヲ支拂ヒ乘車券ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　乘車券ノ種類及料金左ノ如シ

普通券

片道券　七錢
往復券　十四錢
回數券
六十錢券　九枚綴
一圓券　十五枚綴
三圓券　四十五枚綴

乘換券無料

市長事業上必要ト認ムルトキハ前項料金ノ四割以内ノ割引ヲ爲スコトヲ得

第三條　市長事業上必要ト認ムルトキハ前條ノ料金以内ニ於テ特別料金ヲ定メ他ノ交通機關トノ連絡運輸ヲ爲シ又ハ特別料金區間ヲ定ムルコトヲ得

第四條　天災事變其ノ他非常ノ場合ニ於テ市長臨時必要ト認ムルトキハ第二條ノ料金以内ニ於テ特別ノ料金及區間ヲ定ムルコトヲ得

第五條　四歳未滿ノ小兒ハ無料トス

第六條　陸軍兵卒ニシテ制規ノ服裝帶劍ヲ爲ス者及海軍卒ニシテ制規ノ服裝ヲ爲ス者ニ對シテハ軍人往復券ヲ發行シ其ノ料金ハ之ヲ九錢トス

第七條　左ノ時間内ニ於テ乘車スル學生及勞働者ニ對シテハ料金ノ割引ヲ爲ス

自三月一日　至四月末日　午前五時ヨリ同六時三十分マテ
自十月一日　至十一月十五日　同
自五月一日　至九月末日　午前四時三十分ヨリ六時三十分マデ
自十一月十六日至翌年二月末日　午前五時三十分ヨリ同七時マテ

第八條　前條ニ依リ發行スル乘車券ノ種類及料金左ノ如シ

割引片道券　五　錢
割引往復券　九　錢

割引往復券ノ復券ハ前條ノ時間外ト雖之ヲ使用スルコトヲ得

第九條　中學校令、高等女學校令、實業學校令及小學校令ニ依ル學校竝市長ニ於テ之ト同等若ハ其ノ以下ノ學課程度ト認定シタル學校ノ生徒ニシテ通學ノ爲乘車スル者ニ對シテハ通學回數券ヲ發行ス

第十條　通學回數券ノ種類及料金左ノ如シ

二十五回券　一圓十五錢
五十回券　二圓二十五錢

通學回數券ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第十一條　乘換券ヲ交付スル場合ニハ乘換ノ時間及停留場竝行先等ヲ指定ス

左ノ場合ニ於テハ乘換券ヲ無效トス

一　指定ノ時間內ニ指定ノ停留場ニ於テ乘換ヲ爲ササルトキ
二　指定ノ行先ヲ變更シタルトキ
三　讓受借受又ハ不法行爲ニ依リ取得シタルトキ

第十二條　市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ團體乘車ノ爲一車ノ貸切ヲ爲スコトヲ得其ノ料金ハ市長之ヲ定ム

第十三條　既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラス之ヲ還付セス

第十四條　市長ハ事業上ノ必要其ノ他特別ノ事由アル者ニ對シ無料ノ乘車券ヲ發行スルコトヲ得

第十五條　料金又ハ乘車券ノ樣式ヲ變更シタル場合ニ於テハ舊乘車券ノ使用ハ其ノ變更ノ日ヨリ三十日限リトス

前項ノ期間經過後六十日以內ニ於テ市長ノ定ムル所ニ依リ乘車券ノ證明又ハ引換ヲ受クルコトヲ得

第十六條　不正ノ手段ニ依リ料金ヲ免レタル者ニ對シテハ相當ノ料金ヲ支拂ハシメ且其ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額一圓未滿ナルトキハ一圓）以下ノ過料ニ處スルコトアルヘシ

第十七條　乘換券ハ之ヲ讓渡又ハ貸與スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シテ之ヲ授受シタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處スルコトアルヘシ

第十八條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行期日及本條例施行前ニ發行シタル乘車券ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

說明　電車回數券其ノ他ニ關スル條項ヲ改メ一層乘客ノ利便ヲ圖ルト共ニ事業ノ刷新ヲ期セムカ爲條例ヲ改正スルモノトシ本案ヲ提出ス。

附記　第四卷第五章第壹節及ビ第五卷第壹章、第八節竝ニ第六卷第參章第六節第貳項參照

十二月二日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、異議ナク原案通可決セリ。

第百七十二號

自昭和五年度
至昭和八年度
東京市電氣軌道事業受電設備改良繼續年期及支出方法

一金百五拾四萬四千圓

昭和年間　第四章　昭和五年　第拾五節　電氣軌道事業

▽電氣軌道事業受電設備改良繼續年期及支出方法

電氣軌道事業受電設備改良費

內譯

金四拾萬四千圓	昭和五年度支出額
金四拾九萬七千圓	昭和六年度支出額
金四拾八萬弐千圓	昭和七年度支出額
金拾六萬千圓	昭和八年度支出額

說明　鬼怒川水力電氣株式會社供給ノ二十五「サイクル」電力ハ其ノ規格特異ニシテ融通性ヲ缺キ事業經營ノ安定ヲ期シ難キヲ以テ既設機械ヲ周波數五十「サイクル」設備ニ變更スルヲ適當ト認メ四箇年繼續事業トシテ資源ヲ電氣事業減債基金剩餘額處分繰入ニ需メ之ヲ實施セントス。

（支出計算表及計算說明表略ス）

第拾六節　乘合自動車使用條例中改正ノ件

三月三十一日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、異議ナク可決セリ。

第六十七號

東京市乘合自動車使用條例中改正ノ件

東京市乘合自動車使用條例中左ノ通改正シ施行期日ハ市長之ヲ定ム

第二條ノ三　第一號中「飛鳥山線往復券及同連絡往復券ノ復券」ヲ削ル

同　條　第二號中「飛鳥山線回數券」ヲ「特別料金線回數券」ニ改ム

第二條ノ四　市長ハ事業上必要アリト認ムルトキハ他ノ交通機關トノ連絡運輸ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ市長ハ別ニ乘車券及使用料ヲ定ムルコトヲ得但シ第二條ノ二ノ使用料ノ四割ヲ下ルコトヲ得ス

說明　本件ハ本市乘合自動車ト他ノ交通機關トノ連絡運輸ヲ爲スタメ及目下飛鳥山往復券ヲ使用セサルト該線回數券ヲ特別料金線回數券ニ改メタルニ依リ前記ノ通改正スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（參照）

東京市乘合自動車使用條例抄錄

第二條ノ二　乘車券ノ種類及使用料左ノ如シ

普通乘車券	一區乘車券	七錢
	二區乘車券	十四錢
	三區乘車券	二十一錢
	四區乘車券	二十八錢
	五區乘車券	三十五錢
回數乘車券	甲號券（十六區分）	一圓
	乙號券（五十區分）	三圓

第二條ノ三　左記電氣軌道乘車券一枚ヲ以テ乘合自動車一區乘車券ニ代ヘ之ヲ使用スルコトヲ得

一　往復券ノ復券　但シ割引往復券、軍人往復券、飛鳥山線往復券及同連絡往復券ノ復券ヲ除ク

二　回數券　但シ通學回數券及飛鳥山線回數券ヲ除ク

越エテ五月六日ノ會議ニ於テ、市理事者ヨリ左ノ報告アリタリ。

財主發第四七七號

昭和年間　第四章　昭和五年　第拾六節　乘合自動車使用條例中改正ノ件

東京市乘合自動車使用條例中改正ノ件市制第九十一條及第九十二條ニ依リ市長ニ於テ別紙ノ通處置致候條報告候也

昭和五年四月三十日

東京市長　堀切善次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

（別紙）

東京市乘合自動車使用條例中改正ノ件

第二條ノ四「乘車券及」ノ次ニ「第二條ノ二ノ範圍內ニ於テ」ヲ加フ

說明　三月三十一日ノ市會ニ於テ議決ヲ經タル本條例中使用料ニ關シ內務、大藏兩大臣ニ許可申請シタル所、前記挿入通更正許可アリタルニ依リ之カ改正ヲ要シ、且本件ハ鐵道省トノ協定ニ依リ四月十五日ヨリ施行スル關係上急施ヲ要スルヲ以テ本案ヲ草ス。

（參照）

市制抄錄

第九十一條　市會成立セサルトキ、第五十二條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ市長ニ於テ市會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ市會ノ權限ニ屬スル事件ヲ市參事會ノ議決ニ付スルコトヲ得（二項乃至四項略）

前四項ノ規定ニ依ル處置ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市會又ハ市參事會ニ報告スヘシ

第九十二條　市參事會ニ於テ議決又ハ決定スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ市參事會成立セサルトキ又ハ市長ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ市長ハ之ヲ專決シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ市參事會ニ報告スヘシ（以下略）

財主發第五三一號ノ一

東京市乘合自動車特別使用條例制定ノ件市制第九十一條及第九十二條ニ依リ市長ニ於テ別紙ノ通處置致候條報告候也

昭和五年四月三十日

東京市長　堀切善次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

（別紙）

東京市乘合自動車特別使用條例

第一條　本市乘合自動車ノ使用ニ關シ市長ハ緊急ノ事由アリト認メタル場合ニ於テハ東京市乘合自動車使用條例ノ規定ニ拘ラス特別ノ使用料ヲ定ムルコトヲ得

第二條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

理由　天災事變爭議其他臨時突發ノ事件ニ際シ事情已ムヲ得スシテ平常ノ運轉ヲ繼續シ得サル場合ニ於テ臨時ニ運轉方法ヲ定メ機宜ノ方途ニ出ツルヲ要スル場合ノ爲ニ本條例ヲ必要トスルモノトス然シテ今回東京市電氣局ニ於テ從業員ヨリ待遇問題ニ付要求ノ提出アリ事態急迫シ同盟罷業ノ擧ニ出ツルノ虞アリ平常ノ運轉ヲ繼續シ得サルノ懸念アリ斯クテハ市民ノ迷惑不勘ヲ以テ臨時ニ運轉方法ヲ改メ臨機ノ策ヲ執ルヲ要スルヲ以テ市制第九十一條及第九十二條ニ依リ市長ノ專決ヲ乞フモノトス

（參照）市制抄錄、前報告書添附ノ參照ト同一ニ付略ス

次デ十二月二日ノ會議ニ於テ、左ノ議案提出アリ、異議ナク可決セリ。

第百六十八號

東京市乘合自動車使用條例改正ノ件

東京市乘合自動車使用條例ヲ東京市乘合自動車料金條例ニ改メ同條例左ノ通改正スルモノトス

第一條　本市乘合自動車ニ乘車スル者ハ料金ヲ支拂ヒ乘車券ヲ受クルコトヲ要ス

第二條　乘車券ノ種類及料金左ノ如シ

普通券

一區券　十錢

二區券　十五錢

回數券

一圓券　（五錢券　二十二枚綴）

三圓券　（五錢券　六十九枚綴）

五圓券　（五錢券　百十八枚綴）

五錢券二枚ヲ以テ一區券ニ五錢券三枚ヲ以テ二區券ニ充當ス

市長事業上必要ト認ムルトキハ前項料金ノ四割以內ノ割引ヲ爲スコトヲ得

第三條　市長事業上必要ト認ムルトキハ前條ノ料金以內ニ於テ特別料金ヲ定メ他ノ交通機關トノ連絡運輸ヲ爲シ又ハ特別料金區間ヲ定ムルコトヲ得

第四條　天災事變其ノ他非常ノ場合ニ於テ市長臨時必要ト認ムルトキハ第二條ノ料金以內ニ於テ特別ノ料金ヲ定ムルコトヲ得

第五條　四歲未滿ノ小兒ハ無料トス

第六條　本市電氣軌道乘車券普通券ノ片道券、往復券ノ往券若ハ復券又ハ回數券ハ其ノ一枚ニ三錢ヲ加ヘ乘合自動車普通券一區券ニ、其ノ二枚ヲ以テ乘合自動車普通券二區券ニ代用スルコトヲ得

第七條　區間ハ市長之ヲ定ム但シ第二條ノ料金ニ依ル場合ハ最初ノ一區間ハ三粁以上次ノ一區間ハ一粁以上トシ第三條ニ依ル場合ハ一區間一粁以上トス

第八條　乘車券ハ區間ノ中途ニ於テ下車シタルトキハ殘區間アル場合ト雖其ノ效力ヲ失フ

第九條　市長必要ト認ムルトキハ一車ノ貸切ヲ爲スコトヲ得其ノ料金ハ市長之ヲ定ム

第十條　既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラス之ヲ還付セス

第十一條　市長ハ事業上ノ必要其ノ他特別ノ事由アル者ニ對シ無料ノ乘車券ヲ發行スルコトヲ得

第十二條　料金又ハ乘車券ノ樣式ヲ變更シタル場合ニ於テハ舊乘車券ノ使用ハ其ノ變更ノ日ヨリ三十日限リトス

前項ノ期間經過後六十日以內ニ於テ市長ノ定ムル所ニ依リ乘車券ノ引換ヲ受クルコトヲ得

第十三條　不正ノ手段ニ依リ料金ヲ免レタル者ニ對シテハ相當ノ料金ヲ支拂ハシメ且其ノ三倍ニ相當スル金額（其ノ金額一圓未滿ナルトキハ一圓）以下ノ過料ニ處スルコトアルヘシ

第十四條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行期日及本條例施行前ニ發行シタル乘車券ニ關スル事項ハ市長之ヲ定ム

東京市乘合自動車特別使用條例ハ之ヲ廢止ス

說明　本市乘合自動車料金其ノ他ニ關スル條項ヲ改メ一層乘客ノ利便ヲ圖ルト共ニ事業ノ刷新ヲ期セムカ爲條例ヲ改正スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（參考一）

東京市乘合自動車使用條例

第一條　本市乘合自動車ノ使用ニ關シテハ本條例ノ定ムル所ニ依ル

第二條　乘合自動車ニ乘車スルモノハ使用料ヲ支拂ヒ乘車券ヲ受クルコトヲ要ス

五年未滿ノ小兒ハ無料トス

第二條ノ二　乘車券ノ種類及使用料左ノ如シ

普通乘車券

一區乘車券　七錢

二區乘車券　十四錢

三區乘車券　二十一錢

四區乘車券　二十八錢

五區乘車券　三十五錢

回數乘車券

甲號券（十六區分）　一圓

乙號券（五十區分）　三圓

第二條ノ三　左記電氣軌道乘車券一枚ヲ以テ乘合自動車一區乘車券ニ代ヘ之ヲ使用スルコトヲ得

一　往復券ノ復券　但シ割引往復券、軍人往復券ヲ除ク

二　回數券　但シ通學回數券及特別料金線回數券ヲ除ク

第二條ノ四　市長ハ事業上必要アリト認ムルトキハ他ノ交通機關トノ連絡運輸ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ在リテハ市長ハ別ニ乘車券及第二條ノ二ノ範圍內ニ於テ使用料ヲ定ムルコトヲ得但シ第二條ノ二ノ使用料ノ四割ヲ下ルコトヲ得ス

第三條　前條（第二條ノ二）ノ區間ハ市長之ヲ定ム但シ一區間「一キロメートル」未滿ト爲スコトヲ得ス

第三條ノ二　普通乘車券ハ所定ノ區間內ニ於テ下車シタルトキハ殘區間アル場合ト雖再ヒ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第四條　既納ノ使用料ハ如何ナル事由アルモ之ヲ還付セス

第五條　乘客ハ係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乘車券ヲ呈示シ檢査ヲ受クルコトヲ要ス

第五條ノ二　市長ハ事業上ノ必要其ノ他特別ノ事由アル者ニ對シ無料ノ乘車券ヲ發行スルコトヲ得

第五條ノ三　使用料又ハ乘車券ノ樣式ヲ變更シタルトキハ舊乘車券ノ使用ハ其ノ變更ノ日ヨリ三十日限トス

前項ノ期間經過後六十日以內ニ於テ市長ノ定ムル所ニ依リ乘車券ノ引換ヲ受クルコトヲ得

第六條　有效ノ乘車券ヲ所持セス又ハ乘車券ノ檢査ヲ拒ミ若ハ乘車券取集ノ際之ヲ渡ササル者ニ對シテハ相當ノ料金ヲ支拂ハシメ五圓以下ノ過料ニ處ス

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行期日ハ市長之ヲ定ム

（參考二）

東京市乘合自動車特別使用條例（昭和五年四月二十日條例第五號）

第一條　本市乘合自動車ノ使用ニ關シ市長ハ緊急ノ事由アリト認メタル場合ニ於テハ東京市乘合自動車使用條例ノ規定ニ拘ラス特別ノ使用料ヲ定ムルコトヲ得

第二條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（參考三）

昭和年間　第四章　昭和五年　第拾六節　乘合自動車使用條例中改正ノ件

條例改正ニ依ル自動車事業經營上ノ採算

（イ）乘客數

年度	運轉粁	乘客延哩數	實乘客概數	乘車料收入	一日平均運轉車數
	千粁	千延哩	千人	千円	輛
大正十四年度	一〇、一一六	三六、八一二	二一、八六五	二、四二六	二四三
同　十五年度	一一、四四六	四〇、五七〇	二六、四九七	二、七〇一	二七五
昭和二年度	一二、九六三	四七、四〇五	三二、六〇九	三、一六六	三一一
同　三年度	一六、二七四	五九、八六三	四二、四九二	四、〇一四	三九五
同　四年度	一八、九九三	六〇、一四四	四五、五五四	四、〇三九	四五五
同　五年度	（二〇、八三六）二〇、九八九	（七一、五二八）五四、〇二〇	（五五、〇二二）四一、六〇二	（四、七九二）三、六一九	四九二
同　六年度	二二、二二一	四九、〇二五	四三、九六九	四四九八	四九三
同　七年度	二二、二二一	五一、四七七	四六、一六七	四、七二三	四九三
同　八年度	二二、二二二	五四、〇五〇	四八、四七六	四、九五九	四九五

備考

一　本表數字ハ昭和四年度迄ハ實績昭和五年度（　）内ハ豫算左傍ハ實績ニ基ク豫想、昭和六年度以降ハ改正料金ニヨル豫想數字ヲ示ス但シ昭和七年度以降ハ毎年度各五分宛ノ遞增ヲ見込メリ

二　昭和六年度以降ノ乘車料收入ノ乘客數ニ比シ多キハ料金改正ノ結果比較的長距離乘客ノ利用增加スルノ見込ナルヲ以テ一人當料金增加シタルニヨル

（ロ）收支概算

年度	收入 乘車料	雜收入	計	一粁當經營費	讓機超過償金	市債費	計	一粁當益金
	千円	千円	千円	錢	千円	千円	千円	千円
大正十四年度	二、四二六	五二	二、四七八	二四・三八	二、一五九	五	二、二八九	一八九
同　十五年度	二、七〇一	五五	二、七五六	二四・一八	二、二九七	五	二、三〇二	二五四
昭和二年度	三、一六六	五九	三、二二五	二四・五五	二、三七六	五	二、三八一	三四四
同　三年度	四、〇一四	七四	四、〇八八	二五・〇六	二、四九三	五	二、四九八	三九〇
同　四年度	四、〇三九	七五	四、一一四	二五・一六	二、五五六	五	二、五六一	四五三
同　五年度	（四、七九二）三、六一九	（一〇七）一一七	（四、八九九）三、七三六	（二三・九九）一七・一九	二、六〇八	五	（二、六一三）二、六一三	（二〇・八一）一五・八七
同　六年度	四、四九八	一一六	四、六一四	二〇・七六	二、七八九	五	二、七九四	一五・八四
同　七年度	四、七二三	一二一	四、八四四	二一・八〇	二、九五	五	二、九五五	一六・〇八
同　八年度	四、九五九	一二七	五、九八六	二二・八九	三、九九三	五三〇	四、八一八	二六八

備考　本表昭和四年度迄ハ決算ニ依リ五年度（　）内ハ豫算左傍ハ收支見込額ナリ。

第拾七節　市長及助役退職承認ノ件

左記議案ハ五月六日ノ會議ニ上程、**岡田四郎君**ヨリ、本件ハ二百萬市民ニ取リテ頗ル重大ナル事柄ナルヲ以テ、熟考ノ爲、次回マデ決定ヲ延期サレンコトヲ望ムトノ動議提出アリ、異議ナク岡田君ノ動議成立シテ延期ニ決セリ。

祕人第四八二號

別紙寫ノ通辭職屆出候間市制第七十三條第九項但書ニ依リ右退職方市會ニ於テ至急承認候樣御取計相成度候也

昭和五年五月三日

東京市長　堀切善次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

寫

辭職屆

近來著シク健康ヲ害シ劇務ニ難堪候間辭職致度別紙醫師診斷書相添此段申立候也

昭和五年五月二日

東京市助役白上佑吉殿

小職儀

寫

診斷書

一、病名　不眠症

向ヲ六箇月間靜養ヲ要ス

右診斷候也

昭和五年五月二日

東京市小石川區高田老松町二十七番地

堀切善次郎殿

四十七歳

東京市小石川區高田老松町二番地

醫師　鈴木賚

秘人第四八三號

助役白上佑吉、助役田中廣太郎ヨリ各別紙寫ノ通辭職屆出有之候間市制第七十五條第三項ニ依リ右退職方市會ニ於テ承認候樣御取計相成度候也

昭和五年五月三日

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

寫

辭職屆

小職儀

一身上ノ都合ニ依リ辭職致度此段申立候也

昭和五年五月二日

東京市長堀切善次郎殿

寫

辭職屆

東京市助役　白上佑吉

昭和年間　第四章　昭和五年　第拾七節　市長及助役退職承認ノ件

病氣ノ爲辭職致度此段及御屆候也

昭和五年五月二日

東京市助役　田中廣太郎

寫

東京市長堀切善次郎殿

診斷書

一、病名　神經衰弱症

右者頭書ノ疾患ニヨリ當分靜養治療ヲ要スヘキモノト診定候也

右診斷ス

昭和五年五月二日

東京市小石川區大塚辻町十八番地

東京市立大塚病院

醫師　石川仁一郎

住所　赤坂區青山南町五ノ三三

姓名　田中廣太郎殿

誕辰明治二十一年十一月四日

小職儀

次デ五月十二日ノ會議ニ於テ、森富太君ヨリ、重大問題ノ山積シ居ル今日本市ニ市長ヲ失フハ甚ダ遺憾ナルモ、事情已ムヲ得ズト認メラルヽヲ以テ、市長ノ退職ヲ承認シ、白上助役ニ對シテハ、暫ク本市ニ留ラレンコトヲ希望ス。田中助役ノ退職ハ之レ亦甚ダ遺憾ナルモ。市長同樣ニ承認サレンコトヲ望ムトノ動議提出アリ、異議ナク森君ノ動議通リ決定セリ。

附記　第三助役廣瀨久忠君ノ退職ニ就イテハ、五月六日ノ會議ニ於テ、市長ヨリ左ノ如ク報告アリ、

秘人第四七五號

東京市助役廣瀨久忠ハ本年五月二日退職致候間此段報告候也

昭和五年五月二日

東京市長　堀切善次郎

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

寫

辭職屆

小職儀

一身上ノ都合ニ依リ辭職致度此段申立候也

昭和五年四月二日

東京市助役　廣瀨久忠

東京市長堀切善次郎殿

尙ホ第一助役白上佑吉君ハ、永田新市長就任後、六月一日退職シタル旨、六月六日ノ會議ニ左ノ如ク報告アリタリ。

秘人第七九〇號
東京市助役白上佑吉ハ本年六月一日退職致候間此段報告候也
昭和五年六月一日

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿　東京市長　永田秀次郎

第拾八節　市長選舉

五月二十七日ノ會議ニ於テ、市長選舉ノ結果、左ノ如ク絶對多數ニテ永田秀次郎君當選ス。

出席總數七十五名、投票總數七十四票、有效投票七十一票、無效投票三票、棄權一票

（當選）六十四票　永田秀次郎
六票　安部磯雄
一票　渡邊年之助

第拾九節　助役決定ノ件

六月六日ノ會議ニ於テ、左ノ議案ヲ上程セリ。

財主發第七六九號
六月四日御通知致置候本市助役左記三名推薦致候條本日ノ市會ニ於テ御決定相成度候也
昭和五年六月六日

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿　東京市長　永田秀次郎

記

白上佑吉
菊池愼三
十時尊

劈頭市長永田秀次郎君推薦理由ヲ述ベテ曰ク、第一助役ノ白上佑吉君ハ、本年六月一日マデ本市助役タリシ人物ニシテ、本日玆ニ當職ヨリ改メテ紹介スル必要ナカルベシ。第二助役ノ菊池愼三君ハ、最近マデ東京府內務部長ノ職ニ在リ、先般東京市長職務管掌ヲ爲シタル事アリテ、本市ノ事情ニ通曉シ、殊ニ財政上ノ調査、計畫等ニ就キテハ、造詣深キ人物ナリ。第三助役ノ十時尊君ハ、多年本市ニ奉職シ、內記課長、區長等ニ歷任シ、自治行政上ノ實地ニ通曉シタル人物ナリ、斯ル實地ニ通曉シタル人物ガ助役ノ一人ニ在ル事モ適切ノ措置ト考ヘタルナリト。斯テ他ニ異議ナク市長ノ推薦通リ決定セリ。

第貳拾節　名譽職市參事會員補缺選舉

名譽職市參事會員新居友三郎君ハ五月三十日死去シ、同土倉宗明君ハ六月二十一日參事會員ヲ辭任シタルニ付、之レガ補缺選擧アリタキ旨市理事者ヨリ請求アリ、市會ハ即日之ヲ議題ニ供シタルニ、桑原傳助君ヨリ、市制第五十五條第二項ニ據リ、議長ノ指名推薦ニ一任セント欲スト動議提出アリ、滿場異議ナク桑原君ノ動議通リ決シタルヲ以テ、議長ハ、左ノ如ク選定セリ。

岡　田　四　郎　　渡　　龜　　造

第貳拾壹節　電燈電力料金値下問題

▽電燈電力料金値下ニ關スル質疑應答　七月二日ノ會議ニ於テ、**森秉遖君**ハ理事者ニ問ウテ曰ク、電燈電力ハ今日市民生活上緊切ナル必需品ノ一ナリ、然ルニ其料金ハ高價ニ過ギ、之レガ値下ニ就イテハ、二百萬市民何レモ聲ヲ大ニシテ叫ビツヽアリ、然ルニ電燈會社ハ恬トシテ此ノ市民ノ聲ニ耳ヲ藉サズ、蓋シ會社ガ此ノ如キ態度ヲ持スルハ據ル所アリテノ事ナラン、昭和二年ニ東京市ト電燈會社トノ間ニ交換シタル契約書ヲ見ルニ、東京市ハ營利ヲ目的トスル電燈會社ト同一立場ニテ、互ニ競爭ヲ避ケ料金ヲ同一ニスル事、料金未納者等ノアリタル時ハ、互ニ通知シ合フ義務アル事、而シテ此ノ如キ需要者ニハ、互ニ電燈、電力ヲ供給セザル事等ヲ規定セリ、此ハ考ヘ樣ニ依リテハ、公共事業ヲ經營シツヽアル東京市ガ、營利ヲ目的トスル電燈會社ト共ニ、小商工業者竝ニ生活上裕ナラザル一般市民ヲ苦メツヽアルモノトモ言ヒ得ベシ、昭和三年度ニ於ケル本市ノ電燈電力供給ニ關スル收入ハ九百貳拾七萬圓ニシテ、支出ハ七百四萬圓、差引貳百貳拾參萬圓ノ利益ヲ得、同年度末ニ於テ建設費ニ對スル利潤六分六厘ヲ示セリ、斯テハ充分値下ノ餘裕アルガ故ニ、本市ガ誠意ヲ以テ率先會社ニ對シ、料金引下ノ交涉ヲ爲サバ、其目的ハ達成シ得ベシト考フ、然ルニ見識高カルベキ我ガ東京市ガ、電燈會社ノ走狗ノ如キ感アルハ甚ダ遺憾ナリ、何トナレバ我ガ東京市ハ、震災後ニ於テ電燈會社トノ間ニ五萬燈授受ノ契約ヲ爲セルガ、本市ハ電燈會社ヨリ未ダ一萬燈ノ讓受ケスラ爲シ居ラザルニアラズヤ、此ハ何レノ日ニ實現スル見込ナリヤ、若シ夫レ其實現ヲ見ザル場合ハ、如何ナル賠償方法ヲ講ズル考ヘナリヤ、尙ホ東京市ニ於ケル街燈七萬個ニ對シ、東京電燈會社ハ一般市民ニ供給スル料金ニ比シ二割ノ廉價ニテ請負ヒ居レリ、仍テ一般市民ニ對シテモ、街頭料金ト同一ニ供給セシムル能ハザルヤ否ヤ、更ニ鬼怒川水力電氣會社ノ供燈、電力ノ料金ヲ値下ゲセシムルヤウ、先ヅ本市ヨリ値下ヲ實行スル意思アリヤ否ヤ、鬼怒電ハ約貳錢貳厘八毛高價ニシテ、此ノ分ニ對シ一給スル電力料金ト、東電會社ノ供給スル料金トヲ比較スルニ、ケ年五拾萬圓ノ巨額ヲ支拂ヒ居レリ、理事者或ハ曰ハン、本年二月ヨリ二十「サイクル」ヲ五十「サイクル」ニ變更シタルヲ以テ、東京市ハ爲ニ拾七萬圓ノ利益ヲ得ル事トナレリト、然レドモ其契約書ヲ見ルニ、鬼怒電ヨリ本市ニ供給スル料金ハ從前通ニアラズヤ、然ラバ縱ヒ二十「サイクル」ヲ五十「サイクル」ニ改メ、爲ニ拾七萬圓ノ利益ヲ得ベシト雖モ、本市ヨリ一般市民ニ供給スル料金ハ、値下ヲ爲ス能ハザル契約ヲ爲シタルモノト考ヘラル、此ノ點如何ト。市長**永田秀次郎君**答ヘテ曰ク、現在東京市ニ於テ經營シ居レル電燈、電力ニ關スル經濟ハ、最近ニ至リ漸ク多少ノ餘裕ヲ得テ獨立シ得ル事トナリタルモ、未ダ値下ヲ行フ程度ニ至ラズ、鬼怒電會社ヨリ購入シ居ル電力料金ハ、現在ノ實情ニ照シテ高價ナリト考フルモ、今日尙ホ契約期限內ナルヲ以テ、法律的ノ交涉ハ不可能ナリ、然レドモ理事者ガ適當ナル方法ヲ講ジ、實情ニ即シタル交涉ハ爲シ得ベシト考フ、從テ一般市電ニ供給スル電燈、電力ノ値下ヲ行ヒ得ル時機アルベク、其點ニ就イテハ充分研究ノ上質問者ノ希望ニ副フヤウ努力セント欲ス、只本市ガ進デ今日直ニ値下ヲ行フ時機ニハ達シ居ラザル事ヲ一言シ置クベシト。

▽電燈竝電力料金値下ニ關スル建議　十二月十八日ノ會議ニ於テ、桑原信助君外七十二名ヨリ提出ノ左ノ建議ヲ上程セリ。

電燈竝電力料金値下ニ關スル建議

右提出候也

昭和五年十二月十七日

提出者

桑原信助	小俣政一	加藤正信	大神田軍治
河村慶治郎	小野養治	中川重政	松浦清三郎
高橋俊太	長島武治	高橋秀臣	大野傳吉
富岡袖吉	鈴木慶四郎	高崎高次郎	古島宮次郎
安部利七	池田清秋	島本龍太郎	佐藤庄吾
溝口信	森富太	中西敏二	友成四郎
八太茂	松永東	柳田宗一郎	橋本祐幸
茂木太市	小澤佐重喜	國枝捨次郎	村田忠三郎
北條彦四郎	嶋名建	渡龜造	小林半三郎
大崎清作	山口久吉	倉持忠助	山田種三郎
鹽月學	深澤豐太郎	精谷磯平	羽田如雲
高橋庄之助	川村正夫	富田富治郎	卯木國三郎
蓮江啓藏	中塚榮次郎	笠井重治	中南定太郎
伊東美代松	森兼道	高橋義次	杉ノ原英太郎
橋本信次郎	增田知治雄	森健二	高木謙
詫摩武彥	寺部賴助	島中雄三	和田操
和久利幾之助	結城禮一郎	岡田和一郎	田代義德
新甫寬實	岡田四郎	阿部溫知	堺利彥
本多市郎			

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

電燈竝電力料金値下ニ關スル建議

昨昭和四年四月本市會ハ電燈竝電力料金ノ値下ニ關シ滿場一致ノ議決ヲ以テ理事者ニ對シ速ニ其實現ヲ期スヘク最善ノ努力ヲ拂ハレムコトヲ建議シタリ

爾來既ニ一年八箇月ヲ經過ス其間理事者更迭等ノ事故アリタリトスルモ尚未タ之カ實現ヲ見ルヲ得サルハ本會ノ眞ニ遺憾トスルトコロナリ

而カモ今ヤ諸物價益々低落シ一面財界不況ノ爲メ市民ノ生活日ニ窮乏ヲ告ケ値下ノ必要愈々緊切ナルモノアルニ於テヲヤ

理事者ハ深ク此點ヲ考慮シテ鬼怒川水力電氣株式會社及東京電燈株式會社等ノ各會社ニ對シ此際極力交涉ノ上可

及的多額ノ値下ヲ斷行セシメ尠クトモ明年度ノ當初ヨリ必ス之カ實現ヲ期シ以テ市民生活ノ安定ニ寄與スルノ手段ニ出テラレムコトヲ望ム

右建議ス

小俣政一君提案ノ理由ヲ說明シテ曰ク、電燈、電力料金値下竝ニ計量器使用料撤廢ニ關スル建議案ハ、昨年四月十日全員一致ヲ以テ當市會ヲ通過シ、爾來瓦斯料金値下問題ニ就テハ、當市會ヨリ選出ノ委員ヲ以テ組織セル委員會ニ於テ、愼重審議ノ上、或ハ會社ニ迫リ、或ハ主務省ニ陳情、又ハ意見書ヲ提出シ、或ハ諮問ニ對シテ答申スル等、最善ノ手段ヲ盡シテ、市會ノ目的貫徹ニ奔走努力中ナルヲ以テ、本問題ハ暫ク形勢ノ推移ヲ靜觀セント欲ス。然ルニ電燈電力料金値下問題ニ就キ、理事者ハ市會ノ希望ヲ實現セシムベク努力シツヽアリトハ考フルモ、未ダ値下實現ノ曙光ダニ認ムル能ハザルヲ遺憾トス。仍テ本建議ヲ提出シタル次第ナルガ、昨年四月十日提出ノ建議案內容ヲ考察スルニ、當時東京電燈株式會社ハ一「キロワット」ニ對シ、貳錢貳厘八毛ノ料金ヲ以テ電力ヲ供給シ居ルニ、鬼怒川水力電氣株式會社ハ一「キロワット」ニ對シ、貳錢五厘ニテ供給シ居レリ。此ノ東電ト鬼怒電トノ供給料金差額ハ、相當大ナル金額トナルベシ。然ルニ鬼怒川水力會社ハ契約期間中ナリトノ故ヲ以テ、容易ニ値下ニ應ゼズ今日ニ及ベリ。東京電燈會社ハ其後更ニ協調シ、現在ハ一「キロワット」ニ付貳錢壹厘參毛ノ料金ニテ供給シ居レルガ、鬼怒電ハ依然貳錢五厘以下ニ讓歩セザルナリ。元來鬼怒電ヨリ供給ヲ受クル電力量ハ三萬七千「キロ」ニ達スベク、其料金ハ四百六拾貳萬圓內外ナルベシト思惟ス。以ソ拾八萬五千圓內外ノ利益ヲ得、若シ夫レ鬼怒電ガ東電同樣、一「キロ」貳錢壹厘參毛ニ値下セバ、玆ニ六拾八萬五千圓內外ノ剩餘財源ヲ得タリト假定シテ、之ヲ電燈電力料金値下斷行ニ流用スル事トシ、參考ノ一端トシテ本員ノ意見ヲ一言センニ、大口ノ電力料金ハ拾參萬圓ノ輕減ヲ爲シ得、小口ニ就テハ電熱料六萬圓、計量器使用料撤廢ニ要スル費用參拾五萬圓、其他電燈料金二割ノ輕減ハ容易ナルベシト思惟ス。以上ノ理由ニ據リ、理事者ハ市民生活上甚大ノ影響アル電燈電力ニ關シ、市會ノ議決ヲ尊重スルト共ニ、市民ノ輿論ニ聽從シ、鬼怒電會社ニ對シテハ極力交涉ヲ重ネテ、値下ヲ實現セシメ、東電ニ對シテモ、料金ノ引下ニ付更ニ一層ノ交涉ヲ重ネラレムコトヲ希望ス。要スルニ本建議案ハ、昭和六年度ノ豫算編製ニ當リ、理事者ハ電燈電力料金値下ヲ必ズ實行セシムベシトノ堅キ決意ヲ以テ處理セラレンコトヲ、全員ヲ代表シテ强ク要求スル次第ナリト。斯テ本建議ハ、滿場異議ナク即決可決セリ。

第貳拾貳節　市吏員ノ綱紀肅正ニ關スル質疑應答

七月二日ノ會議ニ於テ、**馬島僊君**、今夕ハ時間切迫シ居ルヲ以テ、詳細ハ後日ニ留保スル事トシ、其要點ノミニ就キ質問セント欲スト前提シ、職業紹介事務ヲ取扱ヘル齋藤某ト云ヘル一吏員ガ、公金八千圓程費消シタリト云ヘル事實、其原因、犯罪ノ日時竝ニ其關係範圍等ニ就テナルガ、先ヅ第一ニ其八千圓ノ消費ニ就キ、勞働者ガ直接損失ヲ被ルガ如キ事ナキヤ否ヤ、又其原因ニ就テハ、今日東京市ニテ實施シツヽアル人夫請負制度、竝ニ此ノ制度ニ對スル東京市ノ職業紹介事務取扱方法ニ缺陷アルニアラズヤ、殊ニ一小吏員ガ八千圓ト云ヘル鉅額ヲ自由ニ使用シ得ルガ如キ、其原因ノ詳細ナル點ニ就テハ、他日書面ニテ答辯サルヽモ可ナリ、然レドモ其概略ナリトモ、此ノ席上ニ於テ答辯アランコトヲ望ム、尙ホ此ノ不正事件ハ相當日時ヲ經過シ居ルニ拘ハラズ、今日マデ之ヲ放任シ置キタルハ如何ナル理由ナリヤ、此ノ處置遲延ノ理由ヲモ明瞭ナラシメ置カントト欲スト質シタルニ對シ。**社會局長安井誠一郎君**ハ、時節柄

馬島氏ヨリ質問アリタル如キ重大問題ニ就キ、諸君ニ心勞ヲ煩ハシタルハ恐縮ニ堪ヘズ、本市ノ損失額ハ八千圓程ニシテ、原因ハ本人ノ陳述スル所ニ據レバ、昭和三年二月會計ノ事務ヲ取扱フ事トナリ、金庫ヲ引繼ギタル際、在庫金ト帳簿トニ就キ詳細ナル照合ヲ爲サズ、後貳百餘圓ノ缺陷アルヲ發見シ、之ヲ自己ノ責任ト考ヘ、其補塡策ニ腐心シタル結果、不知不識ノ間ニ深入リシテ、遂ニ莫大ナル損失額ヲ算スルニ至リシナリト、其間約一ケ年ニシテ、事玆ニ至リタルハ、當時實施シツヽアリシ貸銀立替ニ關スル手續規定ニ不備ノ點アリシニモ因ル事ヲ發見セリ、仍テ昨年三月末規定ヲ改正シ、今後再ビ斯ル事ヲ繰返サヾルヤウ手續ヲ嚴重ナラシメタリ、犯罪關係者ハ調査ノ結果、本人一人ニシテ、他ニ此ノ犯罪ニ關係シタル所員ナカリシヲ明ニセリ、然リ而シテ八千圓內外ノ金額紛失ノ結果、貸銀立替ノ爲ニ運用スベキ五拾萬圓ノ基金中、一箇年間ニ亘リ紛失金額五千圓內外ノ缺陷ヲ生ズル事トハナリタルモ、勞働者ノ貸銀支拂等ニハ直接何等影響ナシ、次ニ職業紹介所ニ於ケル人夫請負制度ハ、他ノ普通請負人夫供給ノ場合ト同樣ナル弊害ノ過去ニアリタル事ヲ聞知スルモ、最近充分ナル改革ヲ爲シ、尙ホ將來ニ於テモ弊風根絕ニ最善ノ努力ヲ爲サント欲ス、紹介手續等ニ就テモ、改善ニ努メ、其誤ヲ匡正シツヽアリ、齊藤某ニ對スル處置ノ遲延シタルハ、當時勞働問題ニ關シ四圍ノ情勢頗ル險惡ニシテ、之ヲ即時公開スル事ハ、紹介所ノ活動等ニ惡影響アルベキヲ虞レ、暫ク其處分ヲ留保シ、公開ヲ避ケタルナリト、當職ガ昨年八月事務引繼ノ際ニ承知セリ、尙ホ處分遲延ノ他ノ理由ハ、齊藤某ノ不注意ヨリ生ジタル損失ヲ本人ニ賠償セシメ、由テ以テ市ノ經濟ヲ幾分ニテモ補ハント欲シタルナリ、勿論事件發覺後ハ、本人ヲ所員トシテ暫ク在籍セシメタルモ、決シテ勤務セシメタルニアラズ、又給料等モ支給シタルニアラズ、本人ノ私費ヲ以テ辨償スルヤウ督勵シ、最近マデ之ヲ繼續シ來レリ、然レドモ苟モ法規ヲ紊リ、公金ヲ費消シタル者ニ對シテハ、適當ナル處置ヲ爲サザルベカラズ、仍テ其處置ニ就キ充分ナル方法ヲ講ズルヤウ夫々報告モシ、又幹部ノ指揮ヲモ受ケント欲スト答ヘ。次デ十二月二日ノ會議ニ於テ、**增田知治雄君**モ市理事者ニ問ウテ曰ク、最近市吏員ハ頗ル緊張ヲ缺キ、綱紀モ頽廢シ居レルガ如シ、其實例ノ第一ハ、去ル十月七日當議場ニ於テ即決可決サレタル淺草區ノ歲入缺陷補塡問題ナルガ、淺草區ニ於テ僅カ數年ノ間ニ參拾貳萬圓ト云ヘル鉅額ノ缺損ヲ生ジタルハ、未曾有ノ大事件ナリ、巷間傳フル所ニ據レバ、此ノ未曾有ノ大事件ヲ生ゼシメタルハ、杉前區長ガ所謂高等政策ト稱スル待合政策、料理屋政策ヲ行ヒタル結果ナリト、果シテ然ラバ其監督下ニ在ル吏員ニ對シテハ勿論、他區ニ及ボス影響モ絕大ナルモノアリ、故ニ一日モ速ニ其處置ヲ明ナラシメザルベカラザルニ、今日尙ホ其處置ヲ爲サザルハ如何ナル理由ナリヤ、第二、淺草濟美高等小學校長某及**主任訓導宮城某**等ハ結託シテ、教科書販賣店ヨリ一割ノ「コンミツション」ヲ收受シ、更ニ附近ノ文房具店及「パン」屋等ニ對シ、「コンミツション」ヲ公然要求シタル事實ヲ列擧シテ、之ヲ教育局長ニ具申シタル者アリシモ、局長ハ其教員ト同鄕ノ關係ニテ、言ヲ左右ニ託シ、何等ノ處置ヲ爲サヾルヲ以テ、局長ニハ充分ノ調査アル事ト考フルガ如何、第三、去月二十五日時恰モ從業員ガ電氣局ニ對シ、賞與減額反對陳情ノ爲ニ殺到シ、丸ノ內署及ビ警視廳ヨリ、私服、正服ノ警官千名ヲ派シテ警戒ノ任ニ當レルガ如キ情勢ナリシ際、午後零時半頃、電氣局ノ某課長ガ市ノ自動車ニ搭乘シテ晝食ノ爲ニ外出シタリト聞ク、電氣局長ハ右ノ事實ヲ知ルヤ否ヤ、尙ホ以上三點ニ對スル市長ノ所見ヲ聽カント欲スト。市長**永田秀次郎君**答ヘテ曰ク、市ヨリ給與ヲ受ケ居ル吾々ハ、其職務ニ充分精勵セザルベカラザルハ言フ迄モナシ、仍テ綱紀肅正ニ關シテハ充分努力セント欲ス、質問ノ各事項ニ就テハ、當職ノ知悉セザル點アルヲ以テ、局長等ヨシテ答辯セシメント欲スト。斯テ敎育局長**藤井利譽君**ハ、濟美小學校長竝ニ宮城訓導ニ對スル噂ニ就テハ、小職モ耳ニシタル事アリ、直ニ調查ヲ爲シタルガ、其結果風評ト事實トニ相違ノ點アルヲ知リタルモ、充分

ノ警告ヲ與ヘタリ、然レ共唯今質問ヲ聽キ、更ニ愼重調査ヲ爲ス必要ヲ感ジタリ、仍テ尙ホ充分調査ノ上、適當ノ處置ヲ爲サント欲スト答ヘ。電氣局長**馬渡俊雄君**ハ、電氣局關係ノ綱紀問題ニ就テハ、小職モ及バズナガラ平素格別ノ注意ヲ拂ヒ居レリ、去月二十五日ニ於ケル某課長ノ行動ニ就テノ質問ハ、小職ニハ稍ミ明瞭ヲ缺クガ如ク考ヘラル、或ハ他ノ所用ニテ出入シタル事アリシナランモ、當日ハ爭議關係ニテ何レモ緊張シ居タル日ナリシヲ以テ、關係課長ガ質問ノ如キ行動ヲ爲シタル事ハ、全然無キ筈ナリト答フルヤ。**糟谷磯平君**、前回ノ市會ニ於テ、新宿所在本市ノ所有地處分問題ニ關シ、電氣局長ハ市會ノ議決ヲ無視シ、虛僞ノ答辯ヲ爲セルガ、今又增田君ノ質問ニ對シテ無責任ノ答辯ヲ爲セリ、唯今電氣局長ガ無シト云ヘル事柄ニシテ、事實在リタル場合、電氣局長ハ其責任上如何ナル措置ヲ執ラントスルヤ、本員ハ其氏名ヲ知ルモ、其發表ハ暫ク差控フベシ、但シ電氣局長ノ答辯如何ニ由リ、其氏名ヲ發表スベシ、事實果シテ如何ト質セリ。此時答辯ノ爲ニ白上助役席ヲ立ツヤ、(白上助役ニ質セルニアラズ)ト呼ブ者アリ、(電氣局長自ラ答辯セヨ)ト叫ブ者アリ、議場騷然タリ。此ノ喧騷裡ニ、助役**白上佑吉君**、市吏員全體ニ關スル綱紀問題ハ、小職助役トシテノ主管事項ナルヲ以テ、一應小職ヨリ答辯セント欲ス、縱ヒ事實ノ有無ニ關ハラズ、當議場ニ於テ諸君ヨリ市吏員ノ綱紀弛緩セリトノ叱責ヲ被ルハ、其監督ノ任ニ在ル市長始メ吾々トシテ、洵ニ恐縮ノ至リニ堪ヘズ、唯今ノ電氣局長ノ答辯ハ、當時ノ事情トシテ左樣ノ事ハ無カルベシト、自己ノ信ジタル點ヲ述ベタルナリ、小職等ハ其監督ノ地位ニ在ル一人トシテ、質問ノ如キ問題ヲ公開ノ席上ニ於テ明言スル能ハザル事情アルヲ諒セラレン事ヲ望ム、勿論吾々ハ自己ノ職責上、充分ノ調査ヲ爲シ、綱紀頽廢ノ事實アラバ、適當ノ處置ヲ執ラント欲スト答ヘ、斯テ質疑應答ヲ打切レリ。

第貳拾參節　復興事業公債中外債利子補給問題

▽復興事業公債中外債利子補給其他市財政援助ニ關スル意見書提出ノ建議　左記建議ハ七月二日ノ會議ニ上程、滿場異議ナク即決可決セリ。

復興事業公債中外債利子補給其ノ他市財政援助ニ關スル意見書提出ノ建議

右提出候也

昭和五年七月二日

提出者

堺利彥　池田清秋　伊東美代松　增田知治雄
卯木國三郎　富岡補吉　北條彥四郎　高橋義次
森健二　高橋俊太　森兼道　島中雄三
大野傳吉　馬島個　倉持忠助　山田種三郎
高橋庄之助　柳田宗一郎　蓮江啓藏　糟谷磯平
川村正夫　小林半三郎　松浦清三郎　和田操
中南定太郎　大神田軍治　森富太　森原嘉逸
中塚榮次郎　岡田四郎　山口久吉　高橋秀臣
長島武治　田代義德　高木謙　本田義成

寺部賴助　大崎清作
杉ノ原英太郎　岸邊福雄
島本龍太郎　桑原信助
本多市郎　村田忠三郎
小野養治　中西敏二
伯爵　柳澤保惠　國枝捨次郎
和久利幾之助　羽田如雲
川手忠義　笠井重治
友成四郎　八太茂
新甫寛實　嶋名建
鹽月學　結城禮一郎
渡龜造　詫摩武彦
茂木太市　河村慶治郎
深澤豐太郎　阿部溫知
橋本祐幸　高崎高次郎
小久保時之助　岡田和一郎
鈴木慶四郎　佐藤庄吾
小澤佐重喜　加藤正信

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

復興事業公債中外債利子補給其ノ他市財政援助ニ關スル意見書

振古未曾有ノ大震災ニ因リ受ケタル非常ナル打撃ト經濟界ノ不況トニ依リ甚タシキ窮況ニ在ル本市ノ財政ハ勘クトモ震災ノ復興復舊ニ關スル費用ニ對シ引續キ政府ノ援助ヲ受クルニ非サレハ現下疲弊困憊ヲ極メツヽアル市民ノ負擔ノミヲ以テシテハ到底此ノ難局ヲ脫却シ得サル狀態ニ在リ此故ニ本市會ハ去ル昭和三年三月二十九日滿場一致ノ議決ヲ以テ意見書ヲ提出シ本市ニ對スル財政援助ノ繼續方ヲ懇請切望シタリ

然レトモ援助ヲ受クルニ方リテハ先ツ自ラ誠意ヲ披瀝スルノ要アルヲ思ヒ其後本市會ハ市當局ノ提案ニ係ル極度ノ緊縮節約ヲ加ヘタル經理方法ト一面市民ノ最モ苦痛トスル五百餘萬圓ノ增稅ヲ基礎トスル根本的財政計畫ヲ可決スルト共ニ特ニ昭和五年度豫算ニ對シテハ百五拾萬圓以上ノ整理節約ヲ敢行スヘキ旨ヲ附帶決議シ以テ極力緊縮節約ニ努メツツアリ

閣下冀クハ如上ノ次第ト現下愈々窮迫ノ悲境ニ呻吟シツツアル市民ノ現狀ニ明鑑ヲ垂レラレ豫テ本市當局者ヨリ屢々陳情懇請シツツアル外債利子ノ補給、國庫貸付金ノ元金据置利子免除竝復興事業分擔金ノ免除等ニ關シ特ニ本市ノ希望ヲ貫徹セシメラレ度切望ニ堪ヘス候

右市制第四十六條ニ據リ意見書及提出候也

昭和五年七月　日

東京市會議長　伯爵　柳澤保惠

（內閣總理大臣／內務大臣／大藏大臣）宛

▽復興事業公債中外債利子補給其他市財政援助ニ關スル實行委員設置ノ建議

復興事業公債中外債利子補給其ノ他市財政援助ニ關スル實行委員設置ノ建議

右提出候也

昭和五年七月二日

提出者

堺利彥　池田清秋　伊東美代松　增田知治雄
卯木國三郎　富岡袖吉　北條彥四郎　高橋義次

森　健二　　高橋俊太　　森　兼道　　島中雄三
大野傳吉　　馬島　僩　　倉持忠助　　山田種三郎
高橋庄之助　　柳田宗一郎　　蓮江啓藏　　精谷磯平
川村正夫　　小林半三郎　　松浦清三郎　　和田　操
中南定太郎　　大神田軍治　　森　富太　　森原嘉逸
中塚榮次郎　　岡田四郎　　山口久吉　　高橋秀臣
長島武治　　田代義德　　高木　謙　　本田義成
寺部賴助　　大崎清作　　新市寬實　　嶋名　建
杉ノ原英太郎　　岸邊福雄　　鹽月學　　結城禮一郎
島本龍太郎　　桑原信助　　渡　龜造　　詫摩武彦
本多市郎　　村田忠三郎　　茂木太市　　河村慶治郎
小野養治　　中西敏二　　深澤豐太郎　　阿部溫知
伯爵 柳澤保惠　　國枝捨次郎　　高崎高次郎　　高橋祐幸
和久利幾之助　　羽田如雲　　小久保時之助　　岡田和一郎
川手忠義　　笠井重治　　鈴木慶四郎　　佐藤庄吾
友成四郎　　八太　茂　　小澤佐重喜　　加藤正信

東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

復興事業公債中外債利子補給其ノ他市財政援助ニ關スル實行委員設置ノ建議

復興事業公債中外債利子補給其ノ他市財政援助ニ關スル意見書ノ目的達成ノ爲之カ實行委員（正副議長ヲ含ミ議長指名十七名）ヲ設置シ之ニ機宜ノ措置ヲ一任セムコトヲ望ム

七月二日ノ會議ニ於テ、右建議モ異議ナク可決シタルヲ以テ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

北條彦四郎　古島宮次郎　川村正夫　和田　操　中南定太郎
森　富太　森原嘉逸　小俣政一　山口久吉　田代義德
寺部賴助　島本龍太郎　河村慶治郎　小久保時之助　岡田和一郎

議長 伯爵 柳澤保惠　副議長　溝口信

委員ハ議長柳澤保惠君ヲ委員長ニ、副議長溝口信君ヲ副委員長ニ推シ、目的達成ノ爲種々奔走盡力スル所アリ、十二月二日ノ會議ニ於テ、其經過ヲ左ノ如ク報告セリ。

本市ガ政府ヨリ外債利子ノ補給ヲ受ケ得ルト否トハ、本市財政上ニ重大ナル關係アルガ故ニ、運動上ニモ愼重ヲ要スル必要アルヲ以テ、委員會ハ先ヅ第一ニ理事者ガ從來政府ニ對シ、如何ナル交涉ヲ爲シ來レルカヲ理事者ヨリ聽取シタル後、實行方法ニ就キ愼重協議ヲ爲セリ。其結果、問題ヲ本市ノ有利ニ解決シ、以テ政府ノ援助ヲ受ケ得ルニハ、本市選出衆議院議員諸君ノ協力援助ヲ必要ト考ヘ、七月七日是等市部選出代議士諸君ノ參加ヲ請ヒ、總理、大藏、內務ノ三大臣ニ會見スル事トセリ。而シテ先ヅ總理大臣ニ會見シ、次デ大藏大臣ニ會見シテ、本市財政ノ現狀ヲ詳述シ、是非政府ヨリ援助アルベキヲ希望スルト共ニ、此ノ希望ノ達成シ得ルヤウ充分陳情懇請シタリ。此ノ日內務大臣ハ不在ナリシ爲、內相ニハ同月十日ニ會見シテ、總理、大藏兩大臣ニ陳情シタルト同樣ノ

陳情ヲ爲セリ。次デ同月十七日更ニ委員會ヲ開キ、種々協議ノ末、單ニ本市選出代議士諸君ノミナラズ、貴衆兩院議員全部ノ諒解ヲ得ル事トシ、同日附ヲ以テ貴衆兩院議員全部ニ陳情書ヲ送致セリ。越エテ十月中旬ニ至リ、政府ハ明年度豫算編製ニ當リ、非常ナル財政難ニ直面セルヲ以テ、本市ノ期待ハ拒否セラルベキ虞レアリトノ情報ニ接シ、同月二十二日實行委員ハ內務、大藏兩大臣ニ會見シテ、昭和六年度政府豫算中ニ、是非共外債利子ノ補給ヲ計上セラレ度シトノ趣旨ヲ熱心ニ懇請シタルガ、此ノ日ニ於ケル藏相ノ答辯ハ、政府ノ收入モ激減シ、財政上頗ル困難ノ立場ニ在リトテ、本市ヘノ援助ニ難色アリキ。仍テ委員ハ、此ノ上ハ首相ニ會見シテ極力其諒解ヲ得ルニ若カズト考ヘタリ。當時首相ハ極メテ多忙ナリシモ、同月三十日特ニ會見ヲ求メ、諸君ノ委託ヲ空クセザルヤウ、能フ限リノ力ヲ致シタルモ、如何セン政府自體ガ極力緊縮セザルベカラザル財政狀態ニ在ルガ故ニ、本市ノ希望ハ現在甚ダ悲觀スベキ事態ニ在ルハ、委員一同頗ル遺憾トスル所ナリ。此ノ上ハ市理事者ニ於テ、他ニ適當ナル方策ヲ講ズル外ナカルベシト考フ。尙ホ本實行委員ノ運動ニ關シ、本市臨時財政調査委員會長古島宮次郎君始メ委員諸君ガ、吾々委員會ノ爲ニ熱心ニ盡力サレタルヲ感謝ス。

次デ市長永田秀次郎君ヨリモ、左ノ報告ト意見開陳アリタリ。

外債利子補給問題ハ、言フ迄モナク本市ノ財政上極メテ重大ナル事項ナルヲ考ヘ、大藏大臣ニ會見シテ、親ク其所見ヲ質シタリ。其際藏相ハ前議會ニ之ヲ追加豫算トシテ提案スル考ヘナリシガ、不幸議會ハ解散トナリシ爲、提案ノ運ニ至ラザリキ、仍テ次期議會ニ於テ提案スベク考慮シツヽアルモ、何分政府ニ於テモ財源枯渇シ、從前ニ比シ財政上頗ル困難ナル立場ニ在ルヲ以テ、東京市ノ希望ニ副ヘ得ルヤ否ヤ懸念ナキ能ハズトノ事ナリキ。其後唯今溝口副委員長ノ報告中ニモアリシ如キ經緯アリテ、結局來年度ノ政府豫算中ニ利子補給ノ計上ヲ希望スル能ハザル事態トナレリ。此ノ間當職モ數ゝ內務、大藏兩相ニ會見シテ事情ヲ具申セリ。東京市トシテハ勿論自己ノ力ニテ爲シ得ル限リ、自己ノ義務ニ屬スル事柄ハ飽迄履行スル考ヘナルモ、如何セン今日本市ノ財政狀態ニテハ、政府ヨリ一時補給ヲ仰ガザルベカラザル窮境ニ在リ、市民諸君モ此ノ點ヲ諒解シテ、五百萬圓ノ新稅ヲ負擔シ、充分誠意ヲ披瀝シ居レルヲ以テ、政府ニ於テモ本市ノ此ノ窮狀ニ對シ絕對ニ援助セザルガ如キ事ナカルベシト信ズ。仍テ來年度ノ政府豫算中ニ此ノ利子補給ヲ計上スル能ハズトセバ、其次ノ豫算編製ノ際、是非計上サルヽヤウ繼續要求セント欲ス。最近十一月二十二日ナリシト記憶ス、當職ハ橫濱市長ト共ニ內相官邸ニ赴キ、利子補給ノ件ニ關シテ具申ノ際、東京市ハ此ノ利子補給ヲ受クベキモノトシテ、市ノ豫算ヲ編製シツヽアルヲ以テ、政府ニ於テモ、今期議會ニ計上提案スル能ハズトセバ、次ノ議會ニハ是非共計上提案サレタシト懇願シタルニ、內相モ吾々ノ陳情ヲ理解シ、善後策ニ就テハ充分考慮スベシト云ヘリ。仍テ本件ニ關シ、今後適當ノ機會ニ於テ市會ニ提案セント欲スルハ、萬已ヲ得ザル一策トシテ、翌年度償還ノ市債ヲ長期市債ニ變ヘ、一時借入金ヲ爲シテ、此ノ利子補給問題ヲ一箇年次年度ヘ延期シ、而シテ其總テヲ更メテ國庫ヨリ補助ヲ請フ方法ニ就キ考慮スル以外、他ニ道ナシト考フ。以上ノ次第ニ付、從前通リ充分諸君ノ協力ヲ希望ス。

之レヨリ先十月七日ノ會議ニ於テ、實行委員中森原嘉逸君辭任ニ付、其後任ニ議長ハ蓮江啓藏君ヲ選定セリ。越エテ昭和六年八月十三日柳澤保惠君ハ市會議員ヲ辭任シ、委員長ノ任務ハ自然消滅ニ歸シタルモ、委員會ハ更メテ委員長ヲ選定セズ、昭和七年十一月二十九日ノ會議ニ於テ議長(副議長溝口信君)ハ、缺員補充ニ小野養治君ヲ選定シ、尙ホ同日森富太君辭任ニ付增田知治雄君ヲ、寺部賴助君辭任ニ付岡田四郎君ヲ、古島宮次郎君辭任ニ付友成四郎君ヲ夫々

選定セリ。次デ昭和八年一月十六日ノ會議ニ於テ、篠房輔君ノ動議ニ據リ、議長指名ニテ實行委員ヲ十二名增員スル事トシ、議長ハ左ノ如ク選定シタルガ、同年三月市會議員ノ任期滿了シ、委員ノ任務ハ自然消滅ニ歸セリ。

永久保新藏　豐田正治　川田友之　花村四郎　山口玉造
丸山秀天　宇田川啓輔　安藤德雄　神山錠五郎　小針孫太郎
中村梅吉　大澤梅次郎

第貳拾四節　建築復興信用組合竝商工信用組合ニ關スル問題

▽建築復興信用組合竝商工信用組合ニ關スル質疑應答　十月七日ノ會議ニ於テ、**森富太君**、理事者ニ問ウテ曰ク、大正十二年ノ大震火災ニテ打擊ヲ被リタル市民ノ爲、本市復興ノ一助トシテ創設サレタル建築復興信用組合、及ビ經濟的苦難ニ直面セル中小商工業者ノ爲ニ設ケラレタル產業信用組合等ハ、大震火災ノ爲ニ痛擊ヲ被リタル吾々市民ノ福音ト考ヘラレシモ、其運用ハ設立ノ目的ニ反シ、毫モ善用サレズシテ、却テ惡用サレツヽアリト聞ク、現ニ入谷在住ノ某知人ガ、表玄關ヨリ正々堂々借入ヲ申込ミタル際、五六百圓以上ハ貸與スル能ハズト稱シタルニ拘ラズ、人ヲ介シテ所謂裏口ヨリ借入ヲ申込ムヤ、同一擔保物ニテ、貳千五百圓ヲ貸與シタリ、加之、組合ノ貸與規程ニハ擔保物件アルヲ條件トセルニ、人ニ依リテハ無擔保貸與ヲモ爲セリト聞ク、尙ホ組合ニ牛耳ヲ執レル二三ノ人々ト、市商工課ノ掛員トガ氣脈ヲ通ジ、私利ノ爲資金ノ割當ニ偏頗ナル處置ヲ爲シツヽアリトノ風說モアリ、更ニ某組合中ニ不正アルヲ知ルモ、某有力者ノ關係シ居ル事柄ナルヲ以テ、如何トモ爲ス能ハズト云ヘルヲ聞ケリ、然ルニ吾ガ東京市商工課ニテ發表シタル昭和四年度ノ報告書ヲ見ルニ、信用組合ノ業務ハ順當ニ運營シツヽアリト、果シテ然ルヤ否ヤ、

以上ノ諸點ニ關シ、市理事者ノ明答ヲ煩ハサント欲スト。助役**菊池愼三君**答ヘテ曰ク、本市ノ關係セル信用組合ハ、當初復興建築助成ヲ目的トシテ、之レニ資金ヲ供給スル事トシ、以テ復興ヲ助成セリ、次デ中小商工業資金ノ融通ヲモ爲ス事トシ、名ヲ中小商工組合ト稱セリ、此ノ組合ハ今日中小商工業者ニハ多大ノ貢獻ヲ爲シ、重要ナル機關トシテ將來嘱望サレ居レリ、組合ノ貸付金ニ就テハ、組合ニ理事者アリテ適當ナル處置ヲ爲シ居ル事ト信ズ、唯如何セン、資金ノ需要者頗ル多ク、而モ資金貸出ノ範圍局限セラレ居ルヲ以テ、各需要者ヲシテ滿足セシムル能ハザル憾アリ、兎ニ角貸付ハ能フ限リ公平ナル取扱ヲ爲サシムルヤウ、今後モ充分注意スベシ、市吏員ガ組合ノ役員ト結託云々ノ點ニ就テハ、各區ニ對スル資金ノ配當ハ、獨リ市ノミニテ取扱フニアラズ、府當局トモ交涉シ、又直接ノ債權者タル中央金庫自身ガ市ノ提案ニ對シ、適當ナル配當方法ヲ執ルガ故ニ、質問ノ如キ事實ハ、在リ得ベカラザル事ト信ズ、尙ホ十五區組合全體トシテハ、順調ナル發達ヲ爲シ、大藏省ニ於テモ有力ナル組合トシテ考慮サレ、相當ノ信用ヲ有ス、唯或ル組合中ニ於テ、組合ノ主任書記ガ貸付資金ヲ費消シタルアリ、又不良貸付トモ稱スベキ、公債證書ノ融通、擔保物件ノ提供、其他ノ手續等ニ於テ、問題トナリタル事實アルハ遺憾ナルモ、書記ノ費消金ニ就テハ、關係理事者ヲシテ適當ナル補塡ノ方法ヲ講ゼシメ、不整理資金ノ相當額ニ達セルモノニ就テハ、銳意整理ニ努メシメ、既ニ七割程度ノ整理ヲ爲セリ、殘餘ノ分ニ就テモ速ニ整理セシメツヽアリ、此ノ點ニ就テノ監督指導ハ獨リ本市ノミナラズ、府當局ニ於テモ、又直接ノ債權者タル產業組合中央金庫ニ於テモ努力シツヽアリ、要スル本市ノ信用組合ハ、全體ヲ通ジテ成績順當ニ進ミツヽアリ、故ニ大藏省方面ニ於テモ、產業組合中央金庫ニ於テモ、相當諒解アル事ト信ズト。

▽信用組合ニ關スル檢查委員設置ノ緊急動議　前項記載ノ質疑應答後、**高木謙君**ハ、森富太君ノ質疑ニ對シテ市理

事者ノ說明アリタルモ、不安ヲ感ズル點尠カラザルヲ以テ、市制第四十五條ニ據リ、檢査委員設置ノ動議ヲ提出セントト欲ストテ、先ヅ日程變更ノ動議ヲ提出シタル後、議長指名十五名ノ檢査委員設置ノ緊急動議ヲ提出スルヤ。**澤澤豐太郎君**ハ、高木君ノ動議提出理由中ニ、此ノ檢査ハ單ニ各組合ノ不正又ハ不行屆ヲ調査スルニ止メズ、進デ優良ナル組合ノ成績等モ調査表明スルト共ニ、信用組合ノ內部ニモ立入リ、金利ノ引下、償還年限延長等ニ亙ル緩和策ト改善策トヲ調査シ、以テ信用組合ノ利用ヲ擴大セシメントスル趣意ヲ含メルヤ否ヤ、若シ含ミ居ラズトセバ、此ノ趣意ヲ理由中ニ含マシメラレタシト希望シ。**高木君**ハ、勿論其意ナリト答ヘ。**糟谷磯平君**ハ、市制第四十五條ノ委員ニテハ、深澤君ノ望ム調査ハ不可能ニアラズヤト質シタルガ、高木君ノ動議ニ對シ、滿場異議ナカリシヲ以テ、議長ハ委員ヲ左ノ如ク選定セリ。

高橋義次　森　彙道　柳田宗一郎　糟谷磯平　森　富太
山口久吉　高木　謙　島本龍太郎　河村慶治郎　深澤豐太郎
阿部溫知　橋本信次郎　小久保時之助　川手忠義　小澤佐重喜

委員ハ**河村慶治郎君**ヲ委員長ニ、**山口久吉、高木謙**ノ兩君ヲ理事ニ推シ、或ハ組合ノ實地ニ就キ、或ハ委員總會ヲ開キテ種々檢査中、昭和八年三月市會議員ノ任期終了シ、委員ノ任務モ自然消滅ニ歸セリ。

第貳拾五節　先儒墓所保存基金管理ニ關スル件

十月七日ノ會議ニ於テ、左記議案上程、異議ナク可決セリ。

第百四十二號

基本財產ニ編入竝管理ニ關スル件

樂翁公遺德顯彰會長子爵澁澤榮一ヨリ深川區靈巖町四十六番地所在內務大臣指定史蹟松平定信墓祭祀基金トシテ本市ニ金參千參百圓寄附方申出アリタルニ依リ之ヲ受領シ大正四年十月二十八日第百六號市會議決竝同十一月五日第百九十七號市參事會議決ニ基ク基本財產先儒墓所保存積立金ニ合併シ名稱ヲ史蹟保存基金ニ改メ之ヨリ生ズル利子ハ祭典竝保存ノ費用ニ充當スルモノトス

說明　本件寄附金ハ本市管理ニ係ル內務大臣指定史蹟松平定信墓祭祀基金トシテ寄附申出アリタルモノニシテ之ヲ基本財產中先儒墓所保存積立金ニ合併シ名稱ヲ史蹟保存基金ニ改メ管理スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス。

第貳拾六節　築港事業

▽**東京港修築費繼續年期及支出方法**

第百四十七號

自昭和五年度
至昭和十四年度　**東京港修築費繼續年期及支出方法**

一金參千參百萬圓

內譯

金五拾萬圓　昭和五年度支出額
金百五拾萬圓　昭和六年度支出額
金參百萬圓　昭和七年度支出額

金四百萬圓　昭和八年度支出額
金四百萬圓　昭和九年度支出額
金四百萬圓　昭和十年度支出額
金四百萬圓　昭和十一年度支出額
金四百萬圓　昭和十二年度支出額
金四百萬圓　昭和十三年度支出額
金四百萬圓　昭和十四年度支出額

說明　東京港水運ノ情勢ニ鑑ミ既定ノ修築計畫ヲ擴張シ港灣施設ヲ充實シ水陸連絡施設ヲ整備シテ物資輸送ニ支障ナカラシムルト共ニ埋立地ノ開發利用ヲ促進スルハ極メテ緊要ノ事タルノミナラス本事業ハ失業救濟ノ趣旨ニ適合スルヲ以テ十箇年繼續事業トシテ本費ノ計上ヲ爲スモノトス。

（支出計算表及計算說明表略ス）

東京港修築事業費參考說明書

第一　事業計畫

東京港修築ニ關シテハ明治十三年以來夙ニ其ノ必要ヲ高唱セラレ爾來計畫上幾多ノ研鑽ヲ重ネ又東京市民多年其ノ實現ヲ翹望セシモ機運熟セス偶々大正十二年九月震災時ニ船舶ノ冒險的入津ト犧牲的荷役ノ敢行セラレテ玆ニ東京港ノ修築ハ實際問題トシテ緊急措ク能ハサルモノトナリタルヲ以テ大正十四年三月既定ノ隅田川口改良工事ノ規模ヲ變更シテ六百八十萬圓ヲ千九百萬圓ニ增額シ（昭和四年三月竝昭和五年三月ノ兩度ニ減額シタル結果現在ハ千七百九拾四萬四千五百六拾參圓ナリ）目下着々進行中ニ屬シ一面ニ緊要ナル施設トシテハ工費百八拾四萬餘圓ヲ投シテ芝浦日出町棧橋及臨港鐵道ヲ完成シ以テ東京港水陸連絡ノ一端ヲ實現スルヲ得タリ、然レ共之等ノ施設タルヤ僅ニ年額參百六拾萬噸ノ貨物ノ港內荷役ヲナシ得ルニ止マリ諸般ノ港灣棧橋機能ヲ發揮セシムヘキ施設ハ殆ント之ヲ缺如シ東京港ノ眞價ヲ發揚シ年々輻輳スル百貨ヲ迅速且ツ經濟的ニ消化セシメンニハ之カ擴築增設ヲ一日モ忽ニスルコトヲ得ス加フルニ復興事業ノ完成セル帝都ニ於テ經濟的活躍ヲ期センニハ東京港ノ修築ハ最モ緊急ナル事ト稱スヘク是本計畫ヲ樹立セル所以ニシテ之カ設備ノ概要ヲ示セハ次ノ如シ

(一)　航路

航路ハ第五砲臺及第二砲臺間ナル港口ヨリ南方水深二十五尺ノ等深線ニ達スル間延長三千三百間ニシテ幅員八十間ヲ保チテ干潮面以下二十五尺ノ水深ニ浚渫シ以テ六千噸級以內ノ船舶ノ出入ニ支障ナカラシメ更ニ港內主要航路トシテ月島南端ヨリ第二砲臺ニ達スル間延長千七百五十間ハ幅員八十間水深二十二尺乃至二十五尺ニ浚渫スルモノトス

(二)　假防波堤

假防波堤ハ第三、第六及第二砲臺ヲ連絡シ其ノ延長三百六十間ニシテ既定ノ第三砲臺及深川地先埋立地ヲ連絡スル假防波堤ト相俟テ港內水面積二百五十六萬坪ヲ包擁シ靜穩ナル內港ヲ作リ以テ東風及東南風ニヨル激浪ノ港內ニ及ホス影響ヲ阻止セシムルモノトス

(三)　防砂堤

航路ニ沿ヒテ其ノ兩側ニ防砂堤延長二千八百九十間ヲ築造シテ外海二十五尺ノ等深線ニ達スル迄航路ノ土砂埋設

ヲ防クモノトス

(四)波除堤

第八號埋立地ノ東南面ニ波除堤二百八十一間ヲ設ケ面積四萬四千坪ヲ包擁スル靜穩ナル水面ヲ作リ艀船ニ對シ安全ナル碇繫場タラシムルモノトス

(五)繫船岸壁

第四號埋立地西南面ニ延長二百四十間ノ突堤ヲ築造シ其ノ兩側ニ甲種繫船岸壁(水深二十五尺岸壁)延長二百八十間及乙種繫船岸壁(水深二十二尺岸壁)延長二百八十間ヲ築造シ同岸壁ニ接シテ上屋ヲ建設シ專ラ一般貨物ノ收容ニ便セシメ又第四號埋立地東南面ニ延長二百四十間ノ甲種繫船岸壁ヲ築造シ更ニ之ニ連續シテ延長二百四十間ノ乙種繫船岸壁ヲ築造シテ專ラ石炭其ノ他無包裝貨物ノ移出入ニ備ヘ一方深川區地先第五號埋立地西南面ニハ延長二百四十間ノ突堤ヲ築造シ兩側ニハ乙種繫船岸壁延長五百六十間ヲ築造シ且上屋ヲ建設シ以テ船舶ノ接岸荷役ニ便セシム繫船岸壁ハ何レモ鐵筋混凝土潛函構造トシテ二千噸乃至六千噸級船舶十八隻ヲ同時ニ繫船可能ナラシムルモノトス

(六)棧橋

第一號埋立地前面ニ延長百七十間ノ鐵筋混凝土棧橋ヲ築造シ其ノ前面ヲ水深二十二尺ニ保チ二千噸乃至三千噸級船舶三隻ノ同時繫留ニ供スルモノトス

(七)物揚場護岸

第八號埋立地東南面ニ於ケル艀船溜ノ沿岸延長四百二十六間及第五號埋立地西南面延長三百八十三間ニハ甲種物揚場護岸ヲ築造スルモノトス

(八)埋立地護岸

埋立地護岸ハ鐵筋混凝土矢板構造ヲ主トシ第十號第十一號及第十二號ノ埋立地ノ外海ニ面スル部分ハ特ニ堅牢ナル構造トナスモノトス

(九)本船繫泊所

港內總水面積二百五十六萬坪ノ內芝浦東面ヨリ月島東南面一帶ノ面積九十八萬坪ヲ浚渫シテ本船繫泊所トナシ其ノ內四十萬坪ハ水深二十五尺ヲ保チテ四千噸乃至六千噸級船舶ノ繫泊所ニ備ヘ五十八萬坪ヲ水深二十二尺トナシ二千噸乃至三千噸級船舶ノ繫泊所トシ計四十六隻ノ船舶ヲ同時碇繫ニ可能ナラシムルモノトス

(十)艀船溜

艀船溜ハ第八號埋立地ノ東南面ニ水面積四萬四千坪ヲ劃シテ水深九尺ヲ保タシメテ之ニ充テ其ノ沿岸ヲ物揚場トナス

(十一)筏溜

第十號埋立地西北面ニ水面積十六萬二千坪ヲ包擁スル筏溜ヲ設ケ水深七尺ヲ保タシメ沿岸ヲ物揚場トシテ木材ノ集散及荷役場トナス

(十二)埋立地間運河

各埋立地間ニハ縱橫ニ運河ヲ設ケ幅員三十間乃至六十間トナシ水深干潮面以下七尺ニ浚渫シ艀船航行ノ利便ニ供

セントス

(十三) 浚渫竝埋立

本計畫ニ依ル浚渫總面積ハ百七十七萬坪其ノ土量二百八十萬立坪ニシテ埋立地ハ面積九十二萬六千坪其ノ土量二百五十萬立坪トス

(十四) 上屋竝倉庫

上屋ハ繫船岸壁ニ沿ヒ鐵骨造平家建一萬三千五百坪ヲ建設シ一箇年間ノ岸壁荷役豫想貨物八十萬噸ヲ收容スルニ支障ナカラシメ岸壁法線ヨリ百間ノ地域ハ之ヲ臨港地域トナシ專ラ上屋其ノ他ノ海陸運輸連絡用地ニ充當スルモノトス

(十五) 埋立地上ノ道路竝橋梁

各埋立地上ノ道路ハ周圍ノ交通狀態ヲ考察シテ幅員十間乃至二十間ヲ有スル主要路線其面積約十九萬千坪ヲ撰定シタリ、而シテ隅田川口改良工事ニ屬スル埋立地ノ計畫道路ノ一部ナル約七萬九千坪ト共ニ計二十七萬坪ヲ專ラ砂利道トナシ是ニ附隨スル側溝ヲ設ケ又芝浦府市兩埋立地ノ連絡橋ヲ始メトシ木橋十九橋及鐵橋一橋ヲ築設シテ車馬ノ交通ニ支障ナカラシムルモノトス

(十六) 隅田川可動橋

隅田川ヲ橫斷シテ月島及築地ヲ連絡スル可動橋ヲ架設シ以テ月島埠頭ト市ノ中心地區トヲ連絡スル交通路タラシムルモノニシテ其橋長百三十五間幅員十二間ヲ三經間ニ分チテ中央經間ヲ可動式トシ船舶ノ航行ヲ自由ナラシム

(十七) 鐵道

水陸連絡設備上必要ナル臨港鐵道ハ越中島驛及汐留驛ヲ起點トシテ各繫船岸壁ニ引込線ヲ敷設シ貨物ノ輸送ニ便ナラシメ鐵道橋ハ何レモ其ノ中央經間ヲ可動橋トシ船舶ノ運河交通ヲ容易ナラシムルモノトス

(十八) 其他

以上ノ外柱燈浮標及港燈ヲ設置シテ舒路ノ標識ニ便ニシ繫船浮標ヲ設ケテ本船ノ碇繫ヲ安全容易ナラシメ陸上ニハ沿岸ニ電燈ヲ設置シテ構內ノ照明ニ供シ水道ヲ敷設シテ船舶給水ニ便セシムルモノトス

第二　經理方法

本事業費財源ハ全額公債ヲ以テ之ニ充テ之カ償還資源トシテハ埋立地賣拂代竝其ノ他事業收入ヲ充當スルモノニシテ其ノ經理方法ヲ示セハ左表ノ如シ

年度	收入 公債手取額	收入 埋立地賣却代	收入 事業收入	收入 計	支出 事業費	支出 市債償還費	支出 維持管理費	支出 計	差引殘額
	円	円	円	円	円	円	円	円	円
昭和五年度	四九八、四一〇	一七、三六二	—	三一六、七七二	三〇〇、〇〇〇	—	—	三一六、七七二	〇
同　六年度	一、四九八、一六〇	八三、八七三	—	一、五八二、〇三三	一、三〇〇、〇〇〇	八三、〇三三	—	一、三八三、〇三三	〇
同　七年度	二、九九八、二三〇	三三一、四四三	—	三、三三〇、七三三	三、〇〇〇、〇〇〇	二三〇、七三三	—	三、三三〇、七三三	〇
同　八年度	三、九九八、〇〇〇	三三四、六八四	—	四、三三二、六八四	四、〇〇〇、〇〇〇	三三二、六八四	四七、三〇〇	四、三七九、九八四	〇
同　九年度	三、九九八、〇〇〇	四四九、一〇〇	—	四、四四七、一〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四四七、一〇〇	九四、〇〇〇	四、五二八、一〇〇	〇
同　十年度	三、九九八、〇〇〇	九八八、三六	—	四、八八六、三六	四、〇〇〇、〇〇〇	八八六、三六	一四二、三〇〇	四、九七一、三三六	〇
同　十一年度	三、九九八、〇〇〇	一、〇四七、〇八二	—	五、〇四五、〇八二	四、〇〇〇、〇〇〇	一、〇四五、〇八二	一九七、三〇〇	五、二四二、三八二	〇
同　十二年度	三、九九八、〇〇〇	一、二〇〇、二六八	—	五、一九八、二六八	四、〇〇〇、〇〇〇	一、一九八、二六八	二〇六、三〇〇	五、四〇四、五六八	〇
同　十三年度	三、九九八、〇〇〇	一、三一八、一〇三	—	五、三一六、一〇三	四、〇〇〇、〇〇〇	一、三一六、一〇三	二一八、三〇〇	五、五三四、四〇三	〇

| | | |

▽東京市築港事業公債條例設定ノ件　左記議案ハ十月七日ノ會議ニ於テ、森會太君ノ動議ニ據リ、前項記載ノ第百四十七號議案外四議案ト共ニ、同一委員ニ調査ヲ併託スルニ決シ、委員ハ審査ノ末、十二月二日ノ會議ニ於テ、原案ヲ可決スル事ニ議決シタル旨報告、異議ナク委員會ノ報告通可決セリ。

第百五十三號

東京市築港事業公債條例設定ノ件

東京市築港事業公債條例左ノ通設定スルモノトス

東京市築港事業公債條例

第一章　總　則

第一條　本公債ハ東京港修築事業費ニ充ツル爲之ヲ發行ス

第二條　本公債ハ券面參千五百四拾七萬四千圓以內手取額參千參百萬圓以內トス

第三條　本公債ノ利率ハ一年百分ノ六以內トス

第四條　本公債發行額、手取額、利率及償還方法竝本公債取扱ニ關スル手續其ノ他必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第二章　募　集

第五條　本公債ハ昭和五年度以降十年度間ニ於テ之ヲ募集ス但シ第八條ノ規定ニ依リ短期債ヲ起シタルトキハ短期債ノ償還終期迄之ヲ延長ス

第六條　本公債發行價格ハ券面百圓ニ付九拾參圓以上トス

第七條　本公債ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第八條　本公債發行ノ時期適當ナラサルトキハ當該年度豫定手取額ヲ限度トシテ利子年率百分ノ七以內償還期限五年以內ノ短期債ヲ起スコトヲ得

前項ノ短期債ハ本公債募集金ヲ以テ之ヲ償還スルモノトス

第一項ノ短期債ヲ起スニ付必要ナル事項ハ市參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム

第三章　證　券

第九條　本公債ニ對シテ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第十條　本公債ノ證券又ハ利札ヲ紛失、滅失若ハ汚損シタル者ハ其ノ種類、記號、番號等ヲ明示シテ新證券又ハ新利札ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナルトキ及汚損シタル者ニ對シテハ直ニ其ノ證券又ハ利札ニ相當スル新證券又ハ利札ヲ交付ス

證券又ハ利札滅失ノ證跡明確ナラサルトキ及紛失ノ場合ニ於テハ公示催告手續ニ依リ除權判決アリタルトキニ限リ新證券又ハ新利札ヲ交付ス

前項ノ場合ニ於テハ新證券又ハ新利札ノ交付ニ至ル迄ノ間其ノ元利金ノ支拂ヲ停止シ新證券又ハ新利札ヲ發行シタルトキハ前ノ證券又ハ利札ハ之ヲ無效トス

第十二條　新證券又ハ新利札ノ請求及交付ニ要スル費用ハ請求者ノ負擔トス

第十一條第二項ニ依リ新證券又ハ新利札交付ノ場合ニハ之ニ因テ生スルコトアルヘキ損害ヲ負擔スル旨ヲ約シ

市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ヲ立テシムルコトヲ得

第四章　償還及支拂

第十三條　本公債ノ元金及利子ハ土地賣却代及港灣收入ヲ以テ之ヲ支拂フ

第十四條　本公債ハ昭和十年度以後昭和四十三年度迄ノ間ニ券面額ヲ以テ償還ス但シ市財政ノ都合ニ依リ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ繰上償還ヲ爲シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル但シ買入銷却ヲ爲スコトアルヘシ

第十五條　本公債ノ利子支拂ハ毎年二回ニ分チ其ノ前六月分ヲ支拂フ但シ發行ノトキハ拂込ノ翌日ヨリ償還ノトキハ償還ノ當日迄日割ヲ以テ計算ス

第十六條　償還ノ期日ヲ定メテ公告シタル公債ノ元金ニハ該期日以後利子ヲ附セス

第十七條　本公債ノ元金ハ其ノ償還期日以後十年、利子ハ其ノ支拂期日以後五年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

第十八條　本公債又ハ短期債ハ市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ銀行其ノ他ヨリノ借入金ニ依ルコトヲ得

第三條、第八條、第十三條乃至第十五條ノ規定ハ前項ノ借入金ニ之ヲ準用ス

附　則

本條例ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

說明　第百四十七號議案ニ依ル東京港修築事業費ノ財源ヲ公債ニ需ムルモノトシ本案ヲ提出ス。

第貳拾七節　市民生活費低減ニ關スル建議

左記建議ハ十月七日ノ會議ニ上程、異議ナク即決可決セリ。

市民生活費低減ニ關スル建議

右提出候也

昭和五年十月七日

提出者

島中雄三　伊東美代松　杉ノ原英太郎　橋本信次郎

笠井重治　川手忠義　結城禮一郎　田代義德

增田知治雄　寺部賴助　岡田四郎　新甫寬實

高木謙　山口久吉　小林半三郎　村田忠三郎

本田義成　嶋名建　大崎清作　桑原信助

八太茂　國枝捨次郎　阿部溫知　堺利彥

中西敏二　加藤正信　小澤佐重喜　鈴木慶四郎

松永東　大野傳吉　柳田宗一郎　長島武治

橋本祐幸　大神田軍治　森富太　茂木太市

高橋秀臣　河村慶治郎　小俣政一　高崎高次郎

安部利七　古島宮次郎　中川重政　高橋庄之助
卯木國三郎　富田富治郎　中南定太郎　本多市郎
和田操　和久利幾之助　精谷磯平
東京市會議長伯爵柳澤保惠殿

市民生活費低減ニ關スル建議

金解禁ノ結果トシテノ貨幣價値ノ騰貴ハ既ニ夫レ自身物價ノ下落ヲ意味スルコト言ヲ俟タス況ヤ財界極度ノ不況ハ今ヤ一般物價ヲシテ二割乃至三割ノ下落ヲ來タサシメツヽアルヲヤ、此ノ時ニ當リ公營造物其他ノ使用料、手數料、賃貸料等カ依然トシテ物價昂騰期ノ標準ヲ踏襲シテ今日ニ及ヘルハ單ニ純理ノ上ヨリスルモ不合理ノ甚タシキモノト謂ハサルヘカラス況ヤ大多數市民ノ生活難今ヤ其ノ極ニ達シ破產倒產、一家心中、精神錯亂、自殺、他殺等悲劇ノ場面日ニ滋キヲ加フルニ當リ市民ノ日常生活ニ最モ重大ナル關係ヲ有スル住宅、店舖、水道、電燈電力等市自ラ之ヲ經營スル所ノモノニシテ何等未タ料金低減ノ方法講セラレサルニ於テヲヤ就中電燈電力料金値下ニ關シテハ曩ニ昭和四年四月十日ノ市會ニ於テ滿場一致其ノ建議案通過セルニ拘ラス未タ其ノ實現ヲ見ルニ至ラサルハ甚タ遺憾トセサルヲ得ス、市理事者ハ此ノ際現下市民ノ大多數ノ生活苦ヲ在リノ儘ニ直視シ宜シク一般生活費低減ノ前提トシテ先ツ住宅、店舖使用料、水道料、電燈料、屎尿汲取料等ニ對シ適當ノ考慮ヲ拂ヒ以テ一般生活費ノ輕減ヲ計ルヘク銳意努力セラレンコトヲ望ム

右建議ス

第貳拾八節　本市對鬼怒川水力電氣會社動力使用契約追加締結ノ件

左記議案ハ十二月二日ノ會議ニ於テ、異議ナク原案通可決セリ。

第百七十一號

本市對鬼怒川水力電氣株式會社動力使用契約ニ關シ追加契約締結ノ件

本市カ大正十一年二月二十四日鬼怒川水力電氣株式會社トノ間ニ締結シタル動力使用契約ニ關シ左記假契約ノ條項ニ依リ追加契約ヲ締結スルモノトス

契約書

第一條　東京市（以下甲ト稱ス）及鬼怒川水力電氣株式會社（以下乙ト稱ス）ニ於テ電氣設備ヲ變更シタルトキハ大正十一年二月二十四日兩者ノ間ニ締結シタル動力使用契約書（以下動力使用契約書ト稱ス）第三條ノ規定ニ拘ラス周波數五十「サイクル」電壓一一、〇〇〇「ヴォルト」ノ電力ヲ授受シ得ルモノトス

前項ノ場合ニ於ケル電力料金ハ動力使用契約書第十三條第一項ニ據ルモノトス

第二條　電氣設備變更工事ノ爲乙カ其ノ火力發電所ニ依リ發電シタル場合ニ於テモ動力使用契約書第十三條第二項第二號但書ノ火力發電量ノ最高限度ハ之ヲ變更セサルモノトス

第三條　電氣設備ノ變更ニ關シテハ別ニ協定スルモノトス

第四條　本契約ハ市會ノ決議ヲ經タル日ヨリ其ノ效力ヲ發生スルモノトス

本契約書二通ヲ作製シ各自一通ヲ保有ス

東京市長　堀切善次郎

東京市會

鬼怒川水力電氣株式會社

取締役社長　利光鶴松

說明　本市カ大正十一年二月二十四日鬼怒川水力電氣株式會社トノ間ニ締結シタル動力使用契約ニ基キ供給スル二十五「サイクル」電力ハ其ノ規格特異ニシテ融通性ヲ缺キ事業經營ノ安定ヲ期シ難キノミナラス其ノ半ハ周波數變換ノ上使用セサルヘカラサル關係ニ於テ其ノ損失亦僅少ナラサルヲ以テ周波數ヲ五十「サイクル」ニ變更スルモノトシ之ニ必要ナル追加契約ヲ締結スルモノトシ本案ヲ提出ス。

（附記　第五卷第四章第十九節第參項參照）

第貳拾九節　市會議員異動

昭和五年中ニ於ケル市會議員ノ異動左ノ如シ。

選擧區	氏名	年月日	摘要
四谷區	山田保	昭和五年四月十四日	死亡
日本橋區	新居友三郎	同　年五月三十日	死亡
下谷區	福田勇	同　年七月十四日	死亡

東京市會史第七卷　畢

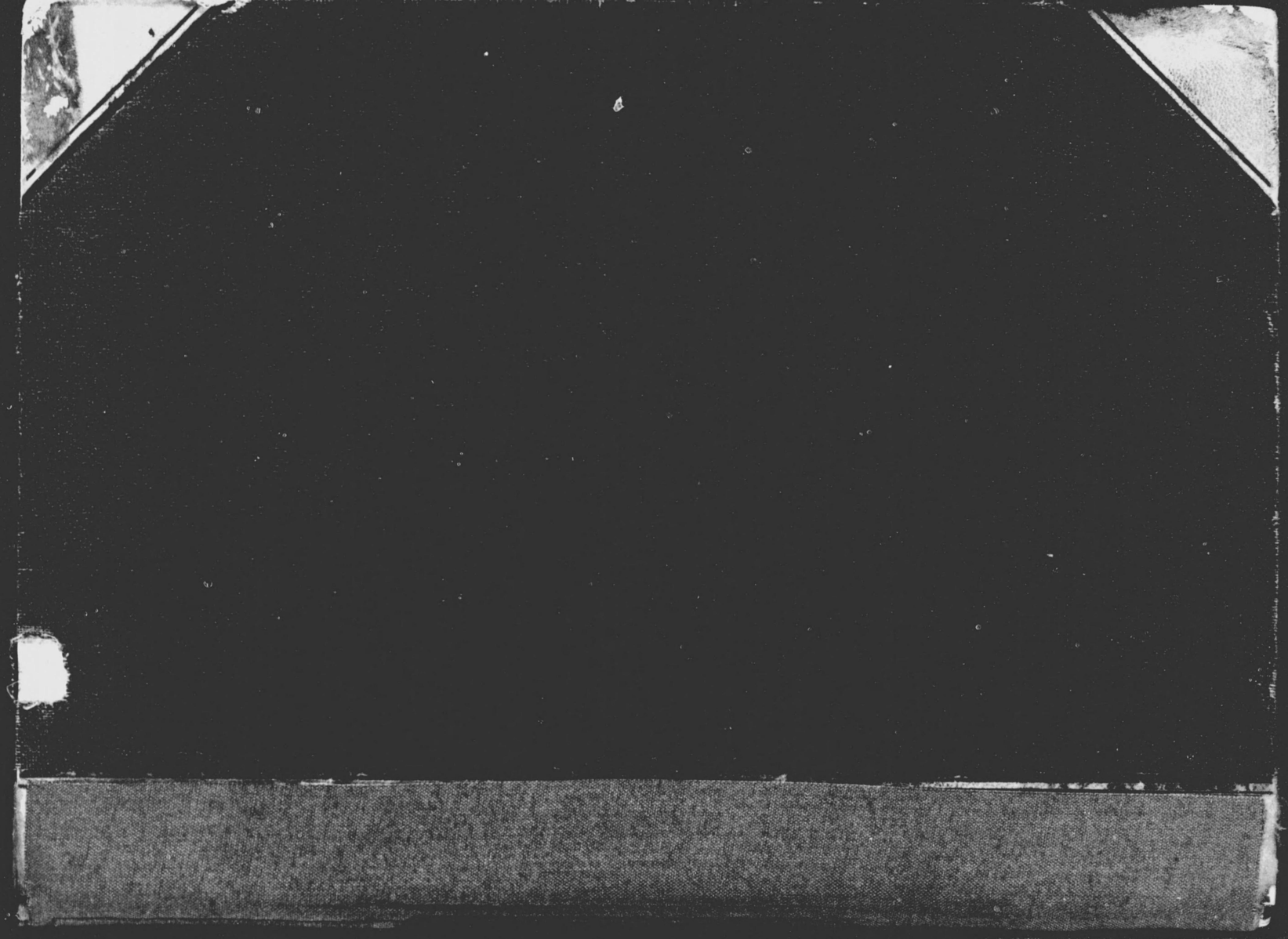
昭和十三年三月二十八日印刷
昭和十三年三月三十一日發行

非賣品

編輯兼發行者　東京市會事務局

印刷所　東京市京橋區京橋二丁目八番地　若松印刷所　電話京橋(56)一五七七

印刷者　東京市京橋區京橋二丁目八番地　小紫與三郎

發行所　東京市會事務局

567
127